

Title	オーストリア刑事法学の一断面(追録I)
Sub Title	Ein Ausschnitt aus dem gegenwärtigen Stand der österreichischen Strafrechtswissenschaft : Zeitschriftenaufsätze der Strafrechtler und Praktiker in Österreich 1. Ergänzung Teil 1.
Author	宮澤, 浩一(Miyazawa, Kouichi)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1979
Jtitle	法學研究 : 法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.52, No.4 (1979. 4) ,p.74- 143
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	資料
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19790415-0074

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

資料

オーストリア刑事法学の一断面(追録Ⅰ)

宮澤浩一

解題

一〇年ほど前の一九六八年末に、「オーストリア刑事法学の一断面——第二次大戦後の雑誌論文目録——」本誌四一巻一二号、一九六八年を發表した。その後、「西ドイツ刑事法学の研究体制——オーストリアおよびドイツ語圏スイスの状況」本誌四七巻三号、一九七四年の中で、その間に異動のあつたオーストリア刑事法研究者の動向について、簡単な報告をしておいた。一九七八年に、これまで調べを続けてきた西ドイツ刑事法学の現状に関する資料集を公開し、西ドイツの刑法学者に関する限り、一応の総まとめができた段階で、懸案のオーストリア刑法学の現状について、書きためておいたカードの整理をすすめ、此の程、一応の整理を終えたので、追録Ⅰとして發表することにした。追録Ⅰは、人名別により、主として雑誌論

文を整理し、若干の著者について分つた限りでの経歴なども付した。追録Ⅱは、事項別に論文を整理したものである。前稿とこの二部作を併せ、第二次大戦後のオーストリアの刑事法の研究動向のほぼ全容が明らかになるものと思う。この種の資料は、ヨーロッパはもとより、アメリカの友人達からも要望があるので、今回からできるだけ外国語のコメントをも付すことにした。事項の表示についても、日本語のみならず、外国語を加えたのは、外国人利用者の便宜のためである。西ドイツの資料の場合も同様であるが、殊に、オーストリアの場合、此の種の論文目録は殆んど存在しないので、前稿は、ドイツやオーストリアの友人達からずい分重宝がられ、かつ、いろいろと注文がついた。一〇年前の資料が、もっぱら日本の利用者だけを考へて作られたことに対して、「資料は國際的に開かれたものだから、われわれにも読める言葉で書かれた簡単な説明を加え

て欲しい」という批判があり、これに応えたものである。

とかく、日本だけを念頭に置いてみると、独善的になりがちである。外国からの批判を受けると、なるほどなあと反省させられることが多い。最近、相次いで、ゲリヒツザールの論文整理や「西ドイツ刑法学」など、比較刑法を行なうための基礎資料を発表した際に、これら外国からの批判や注文を考慮して、いろいろな工夫をほどこしてみたのだが、改めねばならない個所は、本ができてから後に気づくことが多い。

目下まとめているスイス刑法雑誌を中心としたスイス刑法学の研究資料は、スイスの各大学での刑事法関係者の系譜、経歴の調査にいささか時間をとられているが、遅くとも、一九八〇年中には公刊できるであろう。

本稿は、一九六八年公刊の資料（以下、「オーストリア刑事法ビブリオグラフィ」という）の追録であるから、収録された論文は一九六八年末以降のものであると思われるかも知れないが、内容を御覧になるとお分りのように、それ以前の論文もかなり多く含まれている。その理由は、以下の通りである。「オーストリア刑事法ビブリオグラフィ」が「主として」Juristische Blätter と Österreichische Juristenzeitung に発表された刑事法関係の論文を整理したものである。今回、この二つの雑誌については、一九六八年末以後の論文を収録した。オーストリアには、このほか Österreichische Richterzeitung と Zeitschrift für Verkehrsrecht がある。苦心のすえ、交通法雑誌は、創刊号からすべてを揃えることができた。これ

に対して、オーストリア裁判官新聞の方は、ウィーンのマンツ書店の協力をえて、古本として市場に出るたびに、二〜三年度分ずつを送ってもらい、やつと、現在までのところ、一九五五年以降を揃えることができた。今後、絶えず、欠号を補完するよう心がけるから、追録Ⅲ以後に、一九五四年以前の分を収録したいと願っている。

今回の収録分は、すべて、私の手でカードにとり、分類をした。各巻ごとに、論文にあたり、選択をした。殊に、交通法雑誌の場合は、内容を検討して、刑事法的にみて、資料に適するものかどうかを判断して、タイプした。従つて、若しかすると、収録すべきものでもれている論文があるかも知れない。資料は、長く残るものであり、取捨選択を誤ると、利用者に迷惑をかける。従つて、私の場合、二週間に一度、土曜日を利用して、雑誌・論文集・カールスルーエ法律ビブリオグラフィなどに目を通し、もれないように慎重を期してカードを作成することとし、これを一〇年以上、続けてきた。ただ、校正の段階で、どうも見落しがでる。この仕事は、もつと多くの人との協同作業によつて遂行することの方が、能率的であるかも知れず、本来、一人でやるような種類のものではないのだろうが、人の手をかりると、結局、必要な情報が自分の頭に入りにくいので、自分、自分の忍耐力と記憶力とを当てにして仕事を続けたいと思つている。

いつの日か、関をみつけ、一九世紀後半のオーストリアの状況を資料化する機会が与えられたら、これをも含め、オーストリア刑法学という一書にまとめたと思つている。

今日の状況でみる限り、オーストリア刑事法学は、西ドイツのそれと比べて、いささか沈滞気味である。しかし、何といつても、オーストリアは、一八・一九世紀においては、中部ヨーロッパに君臨し、刑事立法上も刑事法学上も、周辺諸国に大きな影響を及ぼした重要な存在であった。その遺産もさることながら、現有勢力のもつ潜在的な力を無視することはできない。

わが国の研究者の目が、もつとそそがれてよい国の一つであると思う。手がかりとなる資料は、ここにできたのだから、あとは、テーマを追究する人々の心構えの問題だろう。本稿に収録した論文は、すべて慶應義塾又は私の個人蔵書として実在する。御希望の向きには、コピー・サーヴィスを申し込まれば、直ちに応じたいと考えている。資料は、独占すべきものでもない。かくしたりしても、何の意味もない。資料というものは、それを利用する人が自分の考えを発展させるためのきつかけであるのだから、多くの人々が共用し、その競争を通じて皆で学問を推進してゆかねば意味がない。私自身、常日頃、「武器の平等」ということを言っているのは、情報源への接近の可能性が特定の人や研究機関に偏ることによつて、学問がいびつになるのを防ぎたいからである。オリジナルな考えなど、そうあるものではない。若いくせに、注をつけない論文を平気で発表する者もいるが、若し、そこで述べられたことが、内外の文献の何かと同じ内容であり、殆んど同じ表現であった場合、いかなる方法で自己の所説が「盗用」でないとし、開きをすることができののだろうか。誰も考えつかない事柄を最初から最後まで書くこと

など、「学問」の分野でありうるであらうか。私には、おそろしくてこういふ「論文」は書けない。だが、おそれを知らぬ者の方が幸いであるとは決して思わない。

以上のような次第で、オーストリア刑事法ビブリオグラフィーの追録Ⅰを世に送り出す。本稿の存在が、わが国の研究者の間のオーストリアへ目を向けようとする人々に何程かの寄与をはたすことを期待したい。編者としては、一部のつまらぬヤジのように「オーストリア刑法学の植民地」を日本に造らうなどをいう意図はなさらさない。ただ、研究上の便宜を提供しようとするのみである。

略 号

JBl. . . Juristische Blätter; öJZ. . . österreichische Juristenzeitung; öRiz. . . österreichische Richterzeitung; ZVR. . . Zeitschrift für Verkehrsrecht.

StProbl. . . Strafrechtliche Probleme der Gegenwart (Strafrechtlicher Seminar der Vereinigung der österreichischen Richter), Bd. 1, 1973, Bd. 2, 1974, Bd. 3, 1975.

Hundert Jahre. . . Hundert Jahre österreichische Strafprozeßordnung 1873-1973, 1973.

なお、本稿には、左の祝賀論文、追悼論文から、オーストリア人の論稿を選んで加えた。年刊年度順で列挙する

Festschrift für Theodor Ritter, 1946.

Festschrift für Edmund Mezger, 1954.

Festschrift für Theodor Rittler, 1957.
 Festschrift für Eberhard Schmidt, 1961.
 Festschrift für Helmuth von Weber, 1963.
 Zur österreichischen Strafrechtsreform, 1965.
 Gedächtnisschrift für Gustav Radbruch, 1968.
 Festschrift für Ulrich Stock, 1968.
 Festschrift für Grütznher, 1970.
 Festschrift für Ernst Heinitz, 1972.
 Festschrift für Reinhart Maurach, 1972.
 Gedächtnisschrift für René Marcic, 1974.
 Festschrift für Karl Peters, 1974.
 Festschrift für Christian Broda, 1976.
 Festschrift für Richard Lange, 1976.
 Festschrift für Eduard Dreher, 1977.

資 料 編 (人名別)

人名の表記の場合、オーストリアでは、濁音を避ける傾向がある
 ことを考慮してみた。

ロバート (Robert Adam)
 シュタンクンツ博士が、長職司法部長理事である。
 Senatpräsident a. D., München.
 論文 (Aufsätze)

オーストリア刑事法学の一断面

1. Ein Polizeibeamter zur Kriminalität in den USA. öRiZ 1970, S. 191 ff.
2. Debatte über das Strafausmaß in den USA. öRiZ 1977, S. 187 f.
3. Das gerichtliche Ausgleichtsverfahren und plea bargaining in den USA. öRiZ 1978, S. 213 f.

アドムニャチ (Ludwig Adamovich)

一九三二年八月二四日、モラヴィアに生れた。一九五四年に学位を
 取得の後、一九七三年に教授資格を得、一九七三年に、モラヴィア大
 学正教授となり、今に至る。

Geboren am 24. 8. 1932 in Graz. Diss. 1954, Habil. 1973, oP
 Graz 1974.

井原繁輔 (Schrift)

Handbuch des österreichischen Verfassungsrechts, 6.
 Aufl., 1971.

論文 (Aufsätze)

1. Verfassungsgleichheit und Reine Rechtslehre. (Zu-
 gleich eine Besprechung des unter diesem Titel erschie-
 nenen Buches von René Marcic.) öJZ 1968, S. 617 ff.
2. Allgemeine Staats- und Verwaltungslehre. Legalitäts-
 prinzip und Ideologie. Dimensionen des Rechts.
 Gedächtnisschr. f. R. Marcic, 1974, S. 723 ff.

アーノルト (Egon Arnold)
論文 (Aufsatz)

Nochmals: Der Art. IX des Kundmachungspatentes zum
StG. und die Straßenverkehrsordnung. ZVR 1965, S. 1 f.

アルツト (Gunter Arzt)

西ドイツのヒプランゲン大学教授。その経歴「著作」宮澤・西
ノイン刑事法第 五頁以下参照。

Vgl. Miyazawa, Die deutsche Strafrechtswissenschaft,
1978, S. 5 ff.

論文 (Aufsatz)

Ursachen und Folgen der Kriminalitätsfurcht. JBl. 1978,
S. 173 ff.

アムツトガー (Hans Asperger)

論文 (Aufsatz)

Das Problem der Glaubwürdigkeit kindlicher Aussagen im
Sexualprozess. öJZ 1970, S. 481 ff.

アインハガー (Konrad Atzwanger)

論文 (Aufsatz)

Zum Verfahren parlamentarischer Untersuchungsausschu-
sse. öJZ 1977, S. 337 ff.

バーター (Helmut Bader)

論文 (Aufsatz)

Das Schutz der privaten Sphäre gegen elektronischen
Abhörgeräte nach der gegenwärtigen Rechtslage in den
USA. JBl. 1972, S. 188 ff.

バジョリ (Pál Bajory)

論文 (Aufsatz)

Das Oberste Gericht der Ungarischen Volksrepublik. öRiZ
1974, S. 187.

バンヤガー (Hermann Bamberger)

「オーストリア裁判官年報」後述高澤の裁判官。本誌四一巻一二号「因
三頁上段参照。

Jugendrichter, dann OLG Rat, Graz.

Vgl. Hozaku Kenkyu Bd. 41, Heft 12, 1968, S. 53.

論文 (Aufsätze)

1. Nochmals: Jugendschutzsachen. öRiZ 1955, S. 49 f.
2. Gedanken zu einer Weiterentwicklung des Jugendstraf-
und Vormundschaftsrechtes. öRiZ 1960, S. 145 ff.
3. Ist eine Teilung der heranwachsenden Rechtsbrecher
nach dem Reifegrad richtig und zweckmäßig? öRiZ
1961, S. 111 ff.
4. Bedeutung der Weisungen im Jugendstrafrecht. öRiZ

1962, S. 179 f.

バルケニトフ (Theodor Barchetti)

継文 (Aufsatz)

Ist die Tätigkeit behördlich konzessionierter Ausgleichsvermittler tatsächlich strafgesetzbuchwidrig? öJZ 1977, S. 263 f.

ベルユ (Károly Bárd)

継文 (Aufsatz)

Der Straßenverkehrsunfall aus internationaler Sicht. Beurteilung nach ungarischem Recht. ZVR 1973, S. 362 ff.

バルトク (Walter Barfuß)

継文 (Aufsatz)

Sind die Strafbestimmungen des Lebensmittelgesetzes 1951 reformbedürftig? JBl. 1972, S. 185 ff.

バルニユ (Heinrich Bartl)

継文 (Aufsatz)

Die Entziehung der Berechtigung zum Lenken von Kraftfahrzeugen und die vorläufige Abnahme des Führerscheines. ZVR 1977, S. 1 ff.

バルトーネフク (Wolfgang Bauerreiß)

継文 (Aufsatz)

§ 268 ZPO. und die Verkehrsdelikte. ZVR 1967, S. 142 ff.

バルトフ (Jürgen Baumann)

国領のチカローグンタム大給禁給。強盗・暴行及び窃盗・強姦の
一風云々。

Vgl. Miyazawa, op. cit., S. 11 ff.

継文 (Aufsätze)

1. Berücksichtigung der Ursächlichkeit von Straßenman-
geln bei der strafrechtlichen Behandlung von Straßen-
verkehrsunfällen. ZVR 1965, S. 57 ff.

2. Möglichkeiten und Grenzen für Gesetzgebung und Recht-
sprechung, durch Strafmaßnahmen die Verkehrssicher-
heit zu heben. ZVR 1967, S. 113 ff.

3. Besteht heute die Möglichkeit, die Freiheitsstrafe bis
zu 6 Monaten zu besetigen? öRiZ 1969, S. 112 ff.

ヤマナー (A. M. Becker)

継文 (Aufsatz)

Psychiatrische Systematik und Chancen der Bewährungs-
hilfe. öRiZ 1966, S. 74 ff.

ヤルトフニク (Hanns Bellavici)

一九〇一年、グラーツに生まれた。ゼーリッヒのあとをうけて、グラーツ大学の犯罪捜査学研究所を主宰し、その体系書の改訂に着手していたが、一九六五年に、急死した。

Geboren in Graz 1901 und verstorben 1965, op. Graz. Nachfolger von E. Seelig.

Nekrolog: Heinz Lefrenz, Hanns Bellavici + Mschr Krim 1965, S. 206.

論文 (Aufsatz)

Psychopathie und Strafe. öRiZ 1963, S. 161 ff.

ベルテル (Christian Bertel)

一九四〇年十一月一日、インズブルックに生まれた。一九六二年に、インズブルック大学で学位をとり、一九六九年には、同大学私講師、次いで一九七〇年にはザルツブルック大学員外教授、七十二年に正教授となり、今日に至る。

Geboren am 11. 11. 1940 in Innsbruck. Dr. jur. 1962, UDoz. Innsbruck 1969, aoProf. Salzburg 1970, oP daselbst 1972.

井原兼三 (Schriften)

Die Identität der Tat. - Der Umfang von Prozeßgegenstand und Sperrwirkung im Strafverfahren, 1970. (Habilitation).

Grundriß des österreichischen Strafverfahrensrechts, 1975.

論文 (Aufsätze)

1. Die Urteilsberichtigung im Strafverfahren. JBl. 1963,

S. 541 ff.

2. Der Amtsmissbrauch durch Unterlassen. JBl. 1970, S. 345 ff.

3. Der Strafvollzug in Stufen und in gelockterter Form im Strafvollzugsgesetz. JBl. 1971, S. 493 ff.

4. Die Zurechnungsfähigkeit. öJZ 1975, S. 622 ff.

5. Zur Reform des Vorverfahrens. öRiZ 1975, S. 97 ff.

6. Zur Reform des Vorverfahrens. StProbl. III, 1975, S. 129 ff.

7. Der Schaden des Betrogenen. öJZ 1977, S. 201 ff.

ヤーブ (Peter Böhm)

論文 (Aufsätze)

1. Zur Interpretationstheorie der Reinen Rechtslehre im Lichte ihrer gegenwärtigen Vertreter. JBl. 1975, S. 1 ff.

2. Möglichkeiten und Grenzen des analytischen Strukturalismus in der Rechtswissenschaft. Zugleich eine Besprechung von Lachmayer-Reisinger: Legistische Analyse der Struktur von Gesetzen. ZVR 1977, S. 257 ff.

ヤク (Walter Boess)

論文 (Aufsatz)

Entlassenhilfe — Voraussetzung der Resozialisierung. öRiZ 1972, S. 155 ff.

ブレイトネッカー (Leopold Breitenacker)

論文 (Aufsätze)

1. Verfahren wegen Verdachtes auf ärztlichen Kunstfehler. öRiZ 1955, S. 158 ff.

2. Medizinische Probleme zur Verkehrssicherheit. ZVR 1968, S. 146 ff.

ブロータ (Christian Broda)

一九六二年頃から司法大臣をめぐつた。一九七六年に六〇歳祝賀論文集が贈られた。本誌四一巻一二号、五三頁上段参照。

Bundesminister für Justiz. Festschrift für Christian Broda, 1976.

Vgl. Hogaku Kenkyu. Bd. 41, Heft 12, S. 53.

論文 (Aufsätze)

1. Der Grundsatz der gerechten Behandlung des Beschuldigten im österreichischen Strafprozeß. öRiZ 1961, S. 169 ff.

2. Das Richterdienstgesetz und der Rechtsstaat. öRiZ 1962, S. 91 ff.

3. Schwerpunkte der österreichischen Strafrechtsreform in der XII. Gesetzgebungsperiode des Nationalrates. öRiZ 1970, S. 67 ff.

4. Strafrechtsreform 1971. öRiZ 1971, S. 181 ff.

5. Die Jugendgerichtsbarkeit nach der Strafrechtsreform. oJZ 1975, S. 197 ff.

6. Zum Inkrafttreten des neuen österreichischen Strafbuches am 1. Jänner 1975. öRiZ 1975, S. 1.

ブルム (Heinrich Bröll)

連邦最高裁判事の「ホーネマン裁判官連合の会長をめぐつた」の著者の実務家。

Hofrat des Obersten Gerichtshofs. Präsident der österreichischen Richtervereinigung.

論文 (Aufsätze)

1. Das Richterdienstgesetz – Erfolg oder Mißerfolg. öRiZ 1962, S. 93 ff.

2. Grundsätze und Einzelfragen der Strafprozessreform. öRiZ 1967, S. 135 ff.

3. Richterernennung und Richterautonomie. öRiZ 1970, S. 107 ff.

4. Versuch, versuchte Verleitung, Verabredung im Strafgesetzentwurf. öRiZ 1971, S. 37 ff.

ブルクマン (Konrad Brustbauer)

論文 (Aufsätze)

Fortbildungsseminar aus Strafrecht und Kriminologie.

öRiZ 1973, S. 78 ff.

ブーゲンハーバー (Franz Buchgraber)

論文 (Aufsatz)

Die Vermögensdelikte. öRiZ 1968, S. 16 ff.

ブコフツィン (LGRat Wilhelm Bukovics)

論文 (Aufsätze)

1. Probleme der Wiedereinsetzung in den vorigen Stand.

öRiZ 1955, S. 38 ff., 50 ff.

2. Die Neugestaltung des Verfahrens in Bagatellsachen.

öRiZ 1956, S. 66 ff., 81 ff., 101 ff.

ブルラ (Franz Bulla)

検事総長びびひた。

論文 (Aufsatz)

Diebstahl und unbefugter Betrieb von Fahrzeugen. ZVVR 1957, S. 81 ff., 104 ff.

ブルクスタラー (Manfred Burgstaller)

一九三九年九月三日、ウヰェルスに生まれた。一九六二年にウヰーン大学で学位を取得し、一九六九年には教授資格を得、一九七二年に員外教授となった。一九七三年には、リンツ大学の正教授にな

り、一九七五年に「ホーネクトリン刑罰法論」の今日に至るまで。

Geboren am 13. 9. 1939 in Wels. Dr. jur. 1962 Wien, Habil. 1969, aOP. 72, oP Linz 1973, 1975 oP Wien.

刑罰法論 (Schritten)

Burgstaller-Schima, Die Aussetzung der Entscheidung im Verfahren vor den Geschworenengerichten, 1968.

Das europäische Auslieferungsübereinkommen und seine Anwendung in Österreich, 1970. (Habilitation)

Das Fahrlässigkeitsdelikt im Strafrecht. Unter besonderer Berücksichtigung der Praxis in Verkehrsachen, 1974.

論文 (Aufsätze)

1. Über den Verbrechensversuch. Eine Konfrontation von Lehre und Rechtsprechung. JBl. 1969, S. 521 ff.

2. Zum Standort des erlaubten Risikos. öJZ 1970, S. 384 ff.

3. Grundzüge einer neuen Fahrlässigkeitsdogmatik. StProbI. 1, 1973, S. 105 ff.

4. Diebstahl, Veruntreuung und Unterschlagung. öJZ 1974, S. 540 ff.

5. Zur Frage der Verjährungsfristen für § 335 StG. öRiZ 1974, S. 1 ff.

6. Roland Grabberger 70 Jahre. JBl. 1975, S. 306 ff.

7. Zur Täterschaftsregelung im neuen StGB. öRiZ 1975, S. 13 ff., 29 ff.

8. Versuch und Rücktritt vom Versuch. StProbl. III, 1975, S. 7 ff.

9. Der Versuch nach § 15 StGB. JBl. 1976, S. 113 ff.

10. Ist der Einsatz des Strafrechts eine sinnvolle Reaktion auf delinquentes Verhalten Jugendlicher? oJZ 1977, S. 113 ff.

11. Zur Einwilligung im Strafrecht. öRiZ 1977, S. 1 ff.

12. Die Scheinkonkurrenz im Strafrecht. JBl. 1978, 393 ff., 459 ff.

13. Straßenverkehr und Strafrecht. ZVR 1978, Sonderh. S. 20 ff.

グシュリンスキー (Franz Bydinski)

ツラートン大学の民法を講じている私講師、そして員外教授となす。本誌四一巻一二号、五三頁参照。

Zivilrechtler in Graz. PD dann aoProf. Graz.

Vgl. Hogaku Kenkyu Bd. 41, Heft 12, S. 53.

論文 (Aufsätze)

1. Die Grundrechte in Relation zur richterlichen Gewalt. öRiZ 1965, S. 67 ff., 85 ff.

2. Franz Gschnitzer † JBl. 1968, S. 467 ff.

チチモツキ (Robert Cichocki)

論文 (Aufsatz)

Das politische Delikt als Kompetenzratbestand der Geschworenengerichtes. oJZ 1970, S. 255 ff.

ンヤチーヌ (Franz Császár)

最近、ンヤチーヌ大学の講師となった若い犯罪学者の著。

主題集巻 (Schrift)

Die Entwicklung der Kriminalität in Österreich von 1953 bis 1964, 1967.

Der Überfall auf Geldinstitute. Eine kriminologische Untersuchung, 1975.

論文 (Aufsatz)

Kinder- und Jugendkriminalität in Wien. oJZ 1978, S. 63 ff.

ディエトリッヒ (Dietrich Derbolav)

論文 (Aufsatz)

Richter und Gericht in der Türkei. öRiZ 1971, S. 19 f.

トヴェーリッヒ (Erwin Dietrich)

本誌四一巻一二号、五三頁を参照。

論文 (Aufsatz)

Zur Anerkennung des Vertrauensgrundsatzes im künftigen Verkehrsstrafrecht. ZVR 1960, S. 172 ff.

トーマス・ディトリッヒ (Robert Dittlich)

連邦司法省の参事官及び交通法の専門家である。一九七〇年頃にウィーン大学の名誉教授となった。

Sektionsrat, dann Ministerialrat im Bundesministerium für Justiz, Honorarprofessor, Wien.

著書 (Schriften)

Dittrich-Weit-Schuchlenz, Österreichisches Straßenverkehrsrecht. 1. Teil, Straßenverkehrsordnung. 3. Aufl., 1970; Dittrich-Weit-Rassl, 2. Teil, Kraftfahrrecht. 2. Aufl., 1958.

論文 (Aufsätze)

1. Die Entwicklung des Straßenverkehrsrechts der Bundesrepublik Deutschland. ZVR 1966, S. 34 ff.
2. Gedanken zum Entwurf einer 3. StVO.-Novelle. ZVR 1967, S. 197 ff. (Novelle. . . S. 201-221.)
3. Die Vorschriften des Kraftfahrzeuggesetzes 1967 über den Verkehr mit Kraftfahrzeugen und Anhänger. ZVR 1968, S. 126 ff.
4. Die Regierungsvorlage einer 3. Straßenverkehrsordnungs-Novelle. Ein Fußweg für Vielbeschäftigte. ZVR 1968, S. 281 ff.
5. Über den Schutz von Satellitensendungen. ZVR 1972, S. 34 ff.

6. Der neue Vorentwurf eines internationalen Abkommens über den Schutz von Satelliten. ZVR 1973, S. 33 ff.

7. Aktuelle Fragen des Straßenzustand- und Kraftfahrrechtes. ZVR 1978, Sonderheft S. 10 ff.

ミニトベハハ (Ministerialrat Wolfgang Doleisch)

長らく同司法省参事官の任にあり、国際会議にオーストリアを代表して参加するにあり。本誌四一巻一三号、四三頁に發參照。

Vgl. Hogaku Kenkyu, Bd. 41, Heft 12, S. 53.

論文 (Aufsätze)

1. Zur Geschichte und Problematik der Bewährungshilfe. öRiZ 1961, S. 105 ff.
2. Gedanken zur Kriminalprognostik. öRiZ 1968, S. 181 ff.
3. Zum neuen Strafvollzugsgesetz. öRiZ 1969, S. 193 ff.
4. Erfahrungen mit der Klassifizierung. öRiZ 1970, S. 209 ff.
5. Die Möglichkeiten der Resozialisierung von Strafgefangenen in der Praxis des Strafvollzuges. JBl. 1971, S. 502 ff.
6. Alternativen zur Freiheitsstrafe unter besonderer Berücksichtigung der Geldstrafe. öRiZ 1974, S. 148 ff.
7. Alternativen zur Freiheitsstrafe unter besonderer Berücksichtigung der Geldstrafe. StProbl. II, 1974, S.

59 ff.

8. Die Sondervollzüge nach dem Strafvollzugsgesetz in kriminalpolitischer Sicht. öRiZ 1976, S. 65 ff.

ユリナー (Hans Dolinar)

論文 (Aufsatz)

Bemerkungen zum Prima-facie-Beweis. öJZ 1968, S. 431

ff.

ユルト (Friedrich Dolp)

論文 (Aufsatz)

Der Irrtum im Verwaltungsstrafrecht. öJZ 1975, S. 57 ff.

ハバーク (Leopold Eckert)

論文 (Aufsatz)

Der Computer, ein Rechtsobjekt sui generis. öJZ 1977, S.

39 f.

ヘーホルバツナー (Oskar Edlbacher)

論文 (Aufsatz)

Die Sicherstellung des Ersatzes für Atomschäden. („Dekungsvorsorge nach dem Atomgesetz.“) ZVR 1963, S. 29 ff.

ハーゲン (Josef Eggermann)

論文 (Aufsatz)

Das “Fahrverbot” in der Bundesrepublik Deutschland und in Österreich. ZVR 1966, S. 115 f.

ハム (Herbert Ent)

論文 (Aufsatz)

Die Pflicht zur Hilfeleistung und Rettung im Straßenverkehr. ZVR 1957, S. 221 ff.

ハム (Helmut Epp)

論文 (Aufsatz)

Das Problem der grenzüberschreitenden Suchtgiftkriminalität mit Ausblicken. öJZ 1977, S. 452 ff.

ホルツ (Felix Ermacora)

一九三三年一月三日、クラゲンフルトに生まれた。一九四八年にクラゲンフルト大学で学位を取得し、一九五一年に同大学で教授資格をえたが、一九五三年には、再びウィーン大学でも教授資格をえた。インスブルック大学の員外教授を経て、同大学正教授に一九六一年に執任し、今日に至るまで。

Geboren am 13. 10. 1923 in Klagenfurt. Diss. 1948, Habilitation 1951 Innsbruck, 1953 Wien, aof und 1961 oP daselbst.

州政新聞 (wichtige Schriften)

Der Verfassungsgerichtshof, 1956.

Österreichisches Hochschulrecht, 1956; 2. Aufl., 1971.

Österreichisches Wehrrecht, 1958; 2. Aufl., 1965.

Österreichischer Staatsvertrag und Neutralität, 1957;

2. Aufl., 1975.

Handbuch der Menschenrechte und Grundfreiheiten, 1965.

憲文 (Aufsätze)

1. Straf Vollzug und Menschenrechte. öJZ 1969, S. 654 ff.

2. Untersuchungshaft nach der Menschenrechtskonvention.

JBl. 1970, S. 393 ff.

3. Die „Rassendiskriminierungskonvention“ als Bestandteil

der österreichischen Rechtsordnung. JBl 1973, S. 179 ff.

HRG (LGRat Gunter Ertl)

区憲府議会の「ハーグの国際私法」及び「国際私法」

憲文 (Aufsätze)

1. Gerichtsbarkeit in Japan. öRiZ 1967, S. 78 ff.

2. Moderne Gerichtsgebäude — eine Aufgabe für die Architekten von heute. öRiZ 1968, S. 163 ff.

3. Gerichtsbarkeit in Pakistan. öRiZ 1971, S. 94 ff.

4. Die Deliktfähigkeit der juristischen Person. öRiZ

1972, S. 111 ff.

5. Fortbildungsseminar für Richter und Staatsanwälte

zum Thema „Wirtschaftsstrafrecht“, öRiZ 1973, S. 157

f.

HRG (OGHRat Otto Estl)

最高裁判所の「国際私法」

憲文 (Aufsätze)

1. Die zwangsweise Blutabnahme im Dienste der Strafrechtspflege als strafprozessuales Problem. ZVR 1958,

S. 201 ff.

2. Der Tatbestand der Untreue im österreichischen Strafrecht. öRiZ 1960, S. 65 ff.

HRG (A. K. Faber)

憲文 (Aufsätze)

Der Straßenverkehrsunfall aus internationaler Sicht.

Beurteilung nach niederländischem Recht. ZVR 1973, S. 346

ff.

HRG (Werner Faber)

憲文 (Aufsätze)

Erfahrungen mit dem Bonus-Malus-System. ZVR 1978,

Sonderh. S. 40 ff.

HRG (Werner Faber)

憲文 (Aufsätze)

Erfahrungen mit dem Bonus-Malus-System. ZVR 1978,

Sonderh. S. 40 ff.

フアサント (Erwin Faseth)

フアイゼンミヤタの検察官からの後進のハーン高裁の刑事となつた実務家。

Staatsanwalt in Eisenstadt, dann Senatrat am OLG Wien.

論文 (Aufsätze)

1. Gedanken zur Auslegung des § 3 StVO. 1960. ZVR 1963, S. 281 ff.

2. Zur Auslegung des § 265 StPO. öJZ 1968, S. 454 ff.

3. Eine versäumte Gelegenheir. öRiZ 1969, S. 162 f.

4. Sind die derzeitigen Altersgrenzen noch zeitgemäß? öRiZ 1972, S. 1 ff.

フハクルバリ (János Fehérváry)

西ドイツのフライブルクにあるマックス・プランク・外国・国際刑法研究所の犯罪学部門の若い研究員である。

論文 (Aufsätze)

1. Die gegenwärtige Lage der österreichischen Kriminologie. öRiZ 1976, S. 125 ff.

2. Wirtschaftskriminalität — Stiefkind der Kriminologie. öRiZ 1978, S. 95 ff.

フアイツトハヌナガー (Karl Feichtenberger)

論文 (Aufsatz)

Der Art. IX des Kundmachungspatentes zum StGB und die Straßenverkehrsordnung. ZVR 1964, S. 313 ff.

フヰツァパー (Heinz Fischer)

論文 (Aufsatz)

Mitwirkung der Vollziehung an der Gesetzgebung. öJZ 1969, S. 253 ff.

フヰツァパー (Friedrich Fischer)

論文 (Aufsatz)

Strafvollzug in Schweden. öRiZ 1978, S. 158 ff.

フヰツァナハントフガー (Hagen Fischschweiger)

論文 (Aufsatz)

Einige Worte zur Strafrechtsreform. öRiZ 1969, S. 19 ff., 73 ff.

フトレフナ (Hermann Fleisch)

同法省の刑事局付検事からの刑事局長となつた実務家。

Leiter der Sektion Straf- und Gnadensachen des BMJ.

論文 (Aufsätze)

1. Schwere Verkehrskriminalität und Strafgerichtsbarkeit.

ZVR 1959, S. 81 ff.

Gunther Hesse. ZVR 1960, S. 7 f.

2. Schwere Verkehrskriminalität und Strafgerichtsbarkeit.
ZVR 1961, S. 265 ff.

2. Die Grundrechte in der Strafprozessordnung 1873 und heute. Hundert Jahre, 1973, S. 1 ff.

3. Staatsanwaltschaft und Sicherheitsbehörde. öRiZ 1976,
S. 105 ff.

3. Mögliche Schwerpunkte einer umfassenden Strafprozessreform. öJZ 1976, S. 449 ff.

4. Das Strafgesetzbuch und der psychiatrische Sachverständige. Zugleich ein Beitrag zur Anwendung des Maßnahmenrechts. öJZ 1977, S. 541 ff.

フランク (Herbert Frank)

編次 (Aufsatz)

フロンター (Egmont Foregger)

Die Entwicklung des österreichischen Selbstbewusens.
ZVR 1969, S. 85 ff.

検察知念の発展と犯罪の刑事訴訟手続の発展
。本誌田一編「犯罪」田三頁に収録

フロイト・ブナー (Bruno Freudenthaler)

編次 (Aufsatz)

12, S. 53.

Datenverarbeitung beim Exekutionsgericht? öRiZ 1978,

編輯 (Schriften)

S. 145 ff.

Foregger-Kunst, Strafvollzugsgesetz, 1970.

Foregger-Serini, Die österreichische Strafprozessordnung,

フーエンツ (Walter Friedrich)

1972.

編次 (Aufsatz)

Foregger-Serini, Strafgesetzbuch, 2. Aufl., 1978.

Sicht und Beleuchtung während der Dämmerung. öRiZ

編次 (Aufsätze)

1957, S. 94 ff.

1. Blutalkoholgehalt, Berausungsgrad und Ausmaß der

Fahrunsicherheit. Zugleich eine Besprechung des Wer-

フリース (Karl Fries)

kes „Die alkoholbedingte Fahrunsicherheit“ von Dr.

編次 (Aufsatz)

„Das religiöse Gefühl“ als Schutzobjekt des Strafgesetzbuch-Entwurfes 1968. JBl. 1971, S. 109 ff.

ザルツナー (Josef H. Gärtner)

論文 (Aufsatz)

Die Maßnahmen zur Lösung der großstädtischen Parkproblemen in Wien und ihr rechtliches Schicksal. ZVR 1960, S. 73 ff., 97 ff.

ガイヤー (Lennart Geijer)

論文 (Aufsatz)

Einige Gesichtspunkte zum Freiheitsentzug im Strafrecht. Festschr. f. Broda, 1976, S. 49 ff.

トヤター (Heinrich Gendler)

論文 (Aufsatz)

Normen und ihre Bedeutung im technischen Recht. öJZ 1976, S. 652 ff.

ギェットル (Karlheinz Gidl)

論文 (Aufsatz)

Stratfrechtliche Aspekte von Bergunfällen. ZVR 1978, S. 289 ff.

タトマント (Ministerialrat Karl Glassl)

民法書の参事として、交刑法の専門家である。重軽の原則に關して、重軽な論文を発表しよう。行刑法にも発言がある。

論文 (Aufsätze)

1. Der Strafvollzug in Österreich. öRiZ 1960, S. 33 ff., 52 ff.
2. Der Vertrauensgrundsatz. ZVR 1961, S. 73 ff.
3. Nochmals: Der Vertrauensgrundsatz. ZVR 1961, S. 169 ff.
4. Die bevorstehende Novellierung der StVO. 1960. ZVR 1963, S. 253 ff.
5. Der Mißbrauch von Notzeichen und Normmeldungen. ZVR 1963, S. 309 ff.
6. Der Vertrauensgrundsatz und das erlaubte Risiko. ZVR 1965, S. 171 ff.
7. Das Fahren mit abgenutzten Reifen. ZVR 1967, S. 225 ff.
8. Die Gefangenearbeit unter besonderer Berücksichtigung der Entlohnung. öJZ 1968, S. 365 ff.

タトマント (Alfred Gleissner)

論文 (Aufsatz)

Voruntersuchung bei Verkehrsunfällen mit Fahrerflucht. ZVR 1957, S. 123 ff.

タローニャ (K. Gloning)

論文 (Aufsatz)

K. Gloning u. R. Quatember, Sprachstörungen und Aus-sagetüchtigkeit bei Gericht. öRiZ 1974, S. 201 ff.

トマン (Alfons Gorbach)

論文 (Aufsatz)

Das Richterdienstgesetz - Garant der Rechtsstaatlichkeit!
öRiZ 1962, S. 89 f.

グスロフナー (Th. Gössweiner)

論文 (Aufsatz)

Probleme der Latengerichtsbarkeit in Strafsachen im Lichte
der Praxis und der Zeitforderungen. Versuch eines berei-
nigten Diskussionsbeitrages. oJZ 1970, S. 235 ff.

グラーフ (Rudolf Graf)

論文 (Aufsatz)

Alkoholismus und Kriminalität. öRiZ 1968, S. 100 f.

グラズブルガー (Roland Graßberger)

一九〇五年五月二二日に、ウィーンで生まれた。伝統のある医者
の家系の出である。ウィーン大学で刑法をライオン・犯罪学をシ
ュトライヒナーで学び、一九三一年にウィーン大学で教授資格を取

オーストリア刑事法学の一面

得した。一九三一年から三二年まで、アメリカにロックフェラー財
団の奨学生として留学した。一九四六年に、ウィーン大学員外教授
四年と正教授となり、一九六八年頃までその地位にいた。こ
本誌四一巻一二号、五三頁七段、五四頁七段参照。
Glückwunsch: Burgstaller, Roland Graßberger 70 Jahre.
JB1 1975, S. 306 ff.

Geboren am 12. 5. 1905 in Wien. Habilitation 1931. Studi-
enaufenthalt in den USA 1931/32, aoProf. 1946, oP 1948.
Vgl. Hogaku Kenkyu, Bd. 41, Heft 12, S. 53 f.

邦訳論文 (Schriften)

Die Brandlegungskriminalität, 1927.

Gewerbs- und Berufsverbrechertum in den Vereinigten Sta-
aten von Amerika, 1933.

Die Lösung kriminalpolitischer Probleme durch die mecha-
nische Statistik, 1946.

Psychologie des Strafverfahrens, 1950; 2. Aufl., 1968.

Die Kriminalität des Wohlstandes, 1962.

Die Unzucht mit Tieren, 1968.

論文 (Aufsätze)

1. Zur Reform des Schwurgerichtes. Festschr. f. Rittler,
1946, S. 49 ff.

2. Zur Strafwürdigkeit der Sittlichkeitsdelikte. Festschr.

4. Eb. Schmidt, 1961, S. 333 ff.
 3. Die Kriminalpolitischen Erfordernisse der Gegenwart und der österreichische Entwurf eines Strafgesetzbuches. Zur österreichischen Strafrechtsreform, 1965, S. 27ff.
 4. Die Jugendkriminalität der Gegenwart. öJZ 1972, S. 229 ff.
 5. Die Bedeutung des Rückfalls. StProbl. 1, 1973, S. 11 ff.
 6. Die besonders leichten Fälle des § 42 der Regierungsvorlage eines Strafgesetzbuches. öJZ 1973, S. 64 ff.
 7. Hundertjahre reformierter Strafprozeß und die Entwicklung der Kriminologie in Österreich. Hundert Jahre, 1973, S. 17 ff.
 8. Sinn und Unsinn der Strafrechtspflege. StProbl. III, 1975, S. 69 ff.
- グリム (Dieter Grimm)
論文 (Aufsatz)
Die Fristenlösungsurteile in Österreich und Deutschland und die Grundrechtstheorie. JBl. 1976, S. 74 ff.
- グロイス (Wolfgang Groiss)
論文 (Aufsatz)
W. Groiss u. M. Welan, Der verfassungsrechtliche Schutz des menschlichen Lebens. öJZ 1978, S. 1 ff.
- グロスハルト (Oskar Groschup)
論文 (Aufsatz)
Neue technische Wege der gerichtlichen Voruntersuchung. öRiZ 1958, S. 51 f.
- グルムバン (Jean-Jacques Grumbach)
論文 (Aufsatz)
Der Straßenverkehrsrunfall aus internationaler Sicht. Beurteilung nach französischem Recht. ZVR 1973, S. 341 ff.
- グンゼルト (Rudolf Gunzert)
フランクフルト大学の社会学の教授であり、社会学研究所を主宰している。
Professor an der Universität Frankfurt.
論文 (Aufsätze)
1. Soziologische Problematik des Verkehrsstrafrechts. ZVR 1964, S. 29 ff.
2. Verkehrssicherheit — eine wichtige Aufgabe der modernen Gesellschaft. ZVR 1967, S. 309 ff.

ハーヤニ (Walther Habel)

論文 (Aufsatz)

Überblick über das internationale Straßenverkehrsrecht.
ZVR 1965, S. 282 ff.

ハックマン (Friedrich Hackauf)

ハーレンの少年裁判所裁判官の心得。

Präsident des Jugendgerichtshofes Wien.

論文 (Aufsätze)

1. Gedanken zur Jugendrichtertagung. öRiZ 1956, S. 113 f.
2. Schlußworte zur Jugendrichtertagung. öRiZ 1957, S. 1 f.

f.

3. Zweite Jugendrichtertagung. öRiZ 1958, S. 61 f.

4. Erfüllte Resolutionen. öRiZ 1962, S. 1 f.

5. Die vorläufige Bewährungshilfe. öRiZ 1962, S. 177 ff.

ハックマン (Wolfgang Hackl)

論文 (Aufsatz)

Die Strafzumessung beim Zusammentreffen strafbarer Handlungen im Verwaltungsstrafrecht – Versuch einer Neuregelung. öJZ 1977, S. 365 ff.

ハーゲン (Johann J. Hagen)

論文 (Aufsatz)

Das Problem der Verfahrensdauer als Gegenstand der Rechtsstatistikenforschung. JBl. 1973, S. 75 ff.

ハービヒ (Konrad Harbich)

論文 (Aufsätze)

1. Die Verkehrsründerkartei. ZVR 1958, S. 5 ff.
2. Die zwangsweise Blutabnahme im Recht der Bundesrepublik Deutschland. ZVR 1959, S. 181 ff.

ハービヒ (Heribert Harbich)

ハーレンの裁判官の心得の心得。後、最高裁判所事案の心得。

本誌四一巻一頁、五頁同頁を参照。

Staatsanwalt, Wien, dann OGHKat. Vgl. Hogaku Kenkyu Bd. 41, Heft 12, S. 54.

論文 (Aufsätze)

1. Das Recht zu sterben — Lebensverlängerung um jeden Preis. öRiZ 1968, S. 115 ff.
2. Über die Waftengleichheit im Strafprozeß. öRiZ 1970, S. 1 ff., 26 ff., 47 ff.
3. Der Beschluß im Strafprozeß und seine Begründung. öRiZ 1977, S. 142 ff.

ハルトル (Univ. Doz. Friedrich Hartl)

ウィーン大学講師の著。犯罪学が専攻であるが、ソシオロジーの素養も深い。
論文 (Aufsätze)

1. Verkehrsrecht, Rechtsprechung und Verkehrssicherheit. Gedanken zum Grundsätzlichen. ZVR 1965, S. 2 ff.
2. Die Entwicklung des Strafrechts in Österreich. öRIZ 1970, S. 136 ff.
3. Der Geistesranke und sein Recht auf persönliche Freiheit. Ein Rückblick zur Besinnung. öJZ 1975, S. 88 ff.
4. Humanität und Strafrecht. Zum 200jährigen Jubiläum der Aufhebung der Folter in Österreich. öJZ 1976, S. 147 ff.
5. Strafrecht und Religion. Gedanken zur Säkularisierung des österreichischen Strafrechts. öJZ 1976, S. 426 ff.
6. Die Freiheitsstrafe in Österreich. Anfänge und Entwicklungstendenzen. öJZ 1977, S. 313 ff.
7. Historische Kriminologie in Österreich. Realität und Möglichkeit. öJZ 1978, S. 285 ff.

ハルトマン (Rudolf Hartmann)

ウィーン高裁判事、最高裁判事、検事総長を歴任し、ウィーン大学名誉教授でもある実務家である。

OLGRat Wien, OGHKrat, Generalstaatsanwalt und Honorarprofessor.
論文 (Aufsätze)

1. Zur Auslegung des Rechtsvorranges. ZVR 1956, S. 145 ff.
2. Der bedingte Strafnachlaß in kriminologischer Sicht. öRIZ 1960, S. 105 ff.
3. Die bedingte Entlassung in kriminologischer Sicht. öRIZ 1962, S. 233 ff.
4. Rudolf Hartmann — Hugo Martinhausen, Ursachen, Prognose und Bekämpfung der Jugendkriminalität im Lichte der Statistik. öRIZ 1964, S. 167 ff.
5. Die gegenwärtige presserechtliche Situation. öRIZ 1967, S. 59 ff.
6. Verkehrsdelikte und Prophylaxe. ZVR 1971, S. 321 ff.
7. Die Rolle der Massenmedien in spektakulären Kriminalfällen. öRIZ 1978, S. 69 ff.

オグラーツ (Alfred Haslmayr)
論文 (Aufsätze)
1. Zur Frage der Unterbrechung der Verjährung im

Sinn der Bestimmungen der §§ 227 und 531 St.G. öRiZ 1971, S. 55 ff.

2. Gedanken zur Abkürzung der Untersuchungshaft. öRiZ 1972, S. 157 ff.

フント (Franz Haupt)

論文 (Aufsatz)

Strafe und Verbrechen. Gedanken eines Statistikers zur Strafrechtsreform. öRiZ 1955, S. 35 ff.

フント (Walter Hauptmann)

リンツ大学の助手を勤めつたが、一九七七年に、ギルツマンツ大学講師になった。

Assistent in Linz, 1977 Univ. Dozent Salzburg.

論文 (Aufsätze)

1. Kriminaltherapeutische Möglichkeiten an abnormen Sexualdelinquenten. öRiZ 1973, S. 44 ff.

2. Psychochirurgie an Triebkranken - ein Rechtsproblem? öRiZ 1975, S. 144 ff.

3. Möglichkeiten und Grenzen einer modernen Kriminalpolitik. StProbl. III, 1975, S. 91 ff.

4. Walter Hauptmann u. Siegfried Sittenhaler, Strafrecht: Zusammenarbeit zwischen Theorie und Praxis in Linz.

öRiZ 1976, S. 132 ff.

5. Sozialpsychologische Aspekte der Generalprävention. öRiZ 1977, S. 113 ff.

フント (Hofrat im OGH Karl Heinrich)

最高裁判所評事である、今年裁判所法の注釈書に本書がある。本書四一巻一二号、五回頁七段参照。

Vgl. Hogaku Kenkyu Bd. 41, Heft 12, S. 54.

著書 (Schrift)

Heidrich - Zastiera, Jugendgerichtsgesetz (JGG 1961), 1962.

論文 (Aufsätze)

1. Gedanken zu einer Reform des Rechtsmittelverfahrens in Strafsachen. öRiZ 1958, S. 29 ff.

2. Das Hauptverhandlungsprotokoll und seine Probleme. öRiZ 1967, S. 191 ff.

ヘルパー (Christian Helfer)

論文 (Aufsatz)

Rudolf von Jhering über das Rechtsgefühl. oJZ 1968, S. 589 f.

ヘルツ (Prof. Ernst C. Hellbing, Wien)

論文 (Aufsatz)

Das kraftfahrrechtliche und das straßenverkehrsrechtliche Verwaltungsstrafrecht. ZVR 1961, S. 97 ff.

Werkes von René Marcic. JBl. 1970, S. 113 ff.

クルー (Kurt Heller)

ヘルビヒ (J. Herbich)

論文 (Aufsatz)

論文 (Aufsatz)

Sind Ombudsman und Rechtsanwaltschaft Konkurrenten?
öJZ 1975, S. 169 ff.

J. Herbich u. W. Stradal, Alkohol und Verkehrsunfall.
ZVR 1968, S. 1 ff.

ヘルワグナー (Gerhard Hellwagner)

ヘルンホルツナー (Hans, Herndlhofer)

論文 (Aufsatz)

論文 (Aufsatz)

Die Revisionsbeschränkung. öRiZ 1967, S. 142 ff.

Aussagewert der klinischen Untersuchung als Beweismit-
tel im Alkoholdelikte. ZVR 1968, S. 225 f.

ヘンクスルムジャー (Johannes Hengstschläger)

ホルスト (Horst Herold)

論文 (Aufsatz)

論文 (Aufsatz)

Grundrechte und Untersuchungshaft. Eine Studie zum aktiv-
en Wahrrecht des Untersuchungsgefangenen. JBl. 1973, S. 19 ff.

Ist die Kriminalitätsentwicklung - und damit die Sicher-
heitslage - verlässlich zu beurteilen? öJZ 1977, S. 292 ff.

ヘンケル (Heinrich Henkel)

ヘンツ (Honorar-Dozent Wilhelm Herz)

ハンブルク大学教授であり、引退後は、ハンブルクに住んでい
る。宮澤、前田一七頁以下。

ハンブルク大学の名譽講師で、弁護士である。本誌四一巻一二頁
五四頁以下。

Prof. em. Hamburg. Vgl. Miyazawa, op. cit., S. 175 ff.

Vgl. Hogaku Kenkyu. Bd. 41, Heft 12, S. 54.

論文 (Aufsatz)

論文 (Aufsätze)

Eine Rechtsphilosophie in Vorlesungen. Besprechung des

1. Der Mensch als Beweismittel. öRiZ 1956, S. 65 f.

2. Über juristische Wahrscheinlichkeit, *öRiZ* 1938, S. 32 ff.
3. Über Versuch und Rücktritt vom Versuch, *öRiZ* 1960, S. 49 ff.
4. Verschwiegenheitspflicht und Hausdurchsuchungen, *öRiZ* 1960, S. 186 ff.

ホフ (H. Hoff)

論文 (Aufsatz)

H. Hoff u. W. Sluga, Geistesranke Rechtsbrecher in psychiatrischen Krankenanstalten und die für eine moderne Psychiatrie sich daraus ergebenden Nachteile *öJZ* 1969, S. 63 ff.

ホフマン (Kurt Hofmann)

論文 (Aufsatz)

Ist eine Novelle zu § 3 StVO. 1960 notwendig? *ZVR* 1963, S. 200 ff.

ホフナー (K. J. Höfner)

論文 (Aufsatz)

Die Problematik des jugendlichen Kraftfahrers. *ZVR* 1974, S. 52 ff.

ホーホ、ホフマンナー (Siegfried Hohenleiner)

インスブルック大学のリッターラーの弟子で、同地の高裁判事をへて、一九五四年には、同大学員外教授となり、その後、同大学正教授となった。本誌四一巻一二号、五四頁七段。

OLGRat Innsbruck, 1954 aoProf dort, dann oP.

Vgl. *Hogaku Kenkyu*, Bd. 41, Heft 12, S. 54.

判例集 (Schrift)

Tatbestand und Werturteil, 1933.

論文 (Aufsätze)

1. Schuld als Werturteil. *Festschr. f. Rittler*, 1957, S. 185 ff.
2. Die Österreichische und die Italienische Straßenverkehrsordnung. *ZVR* 1962, S. 141 ff.
3. Das neue Schweizer Straßenverkehrsgesetz. *ZVR* 1964, S. 113 ff.

ホルツマン (Prof. Dr. med. Wilhelm Holzabek, Wien)

ウィーン大学の法医学の教授である。

論文 (Aufsätze)

1. Zur Frage des Beweiswertes der klinischen Alkoholuntersuchung, der Zeugenaussagen und der sogenannten Umstände gegenüber der Blutalkoholbestimmung. *ZVR* 1968, S. 227 f.

2. Der gerichtsmedizinische Sachverständige und seine

Bedeutung im Strafprozeß, Hundert Jahre, 1973, S. 29 ff.

Probleme des Glücksspielfrausrechts. öJZ 1978, S. 421 ff., 458 ff.

クハトニ (AGRat Konrad Hündel, Mannheim)

論文 (Aufsatz)

クハトルガー (UGRat Kurt Hörburger, Zell am See)

シハシ・ノト・ヤ一の裁判と勅令の裁判官による

Die Änderungen im Straßenverkehrsrecht der Bundesrepublik Deutschland. ZVR 1956, S. 164 ff.

論文 (Aufsätze)

クーニツ・ユハ・トルム (Franz Hönigschmid)

邦国法廷の勅令と裁判官の職務と 国憲の年報を以て強法の国を以て勅令と裁判官の職務

1. Zur strafrechtlichen Beurteilung von Lawineneinfällen. öRIZ 1969, S. 179 f.
2. Zum Problem des Rechtswidrigkeitszusammenhanges. ZVR 1973, S. 97 ff.

Senatsrat im BMJ, Vicepräsident der A. I. J. E.

論文 (Aufsätze)

3. Zum Begriff der Fahrlässigkeit des § 6 StGB. öJZ 1974, S. 562 ff.

1. Der V. Kongreß der Internationalen Vereinigung der Juristen (A. I. J. E.) in Brüssel vom 14. bis 18. Juli 1958. öRIZ 1958, S. 125 ff.

ホロフ (Max Horrow)

2. Die Generalversammlung 1960 der englischen Laienrichter (Magistrates) in London. (Eindrücke von einem Kongreß). öRIZ 1960, S. 185 f.

一九四七年頃、シラッソ大学私講師をしていたが、一九四九年に、同大学教授による。

3. Die Bewährungshilfe als Aufgabe des Richters. öRIZ 1965, S. 72 ff.

PD Graz gegen 1947, 1949 oP daselbst. Vgl. Hogaku Kenkyu, Bd. 41, Heft 12, S. 54.

クニヤル (Frank Höpfel)

論文 (Aufsatz)

Grundriß des Österreichischen Strafrechts. 1. Hälfte, 1947; 2. Hälfte, 1952.
論文 (Aufsatz)

Entzug des Führerscheines durch richterliches Urteil.
ZVR 1956, S. 33 ff.

ハヤト (Hans Hoyer)

継次 (Aufsatz)

Die Selbstbindung des österreichischen Obersten Gerichtshofes. öJZ 1974, S. 141 ff.

ハロニキー (Alois Hradetzky)

継次 (Aufsatz)

Oberlandesgerichtspräsident Dr. Wilhelm Malaniuk f.
öRiZ 1966, S. 25.

ホルナー・ローター (OLGRat Edgar Huber, Wien)

継次 (Aufsätze)

1. Das Evidenzbüro des Obersten Gerichtshofes. öRiZ
1976, S. 169 ff., 196.

2. Strafzwecke - Vollzugszwecke - Vollzugsziel. öRiZ
1976, S. 234 ff.

ヘンヤン・ローター (Senatpräsident OLG Heinz Huber, Wien)

継次 (Aufsätze)

1. Das Richterdienstgesetz 1961 - Abschluß oder Anfang.

öRiZ 1962, S. 106 ff.

2. Das Weltjahr der Menschenrechte und die Unabhängigkeit der Rechtsprechung. öRiZ 1969, S. 37 f.

ヤブローター (Clemens Jabloner)

継次 (Aufsatz)

Die Verwaltungsbehörde im Dienst der Strafjustiz. öJZ
1978, S. 533 ff.

ヤホダ (Ernst Jahoda)

長編 四ノ巻 一ノ巻 ' 四ノ巻 七巻'

Vgl. Hogaku Kenkyu Bd. 41, Heft 12, S. 54.

継次 (Aufsatz)

Die Stellung des Verteidigers. öJZ 1969, S. 569 ff.

ヤリシ・ヤンキー (Horst Janiszewski)

継次 (Aufsatz)

Stand der Arbeiten zur Vereinheitlichung des Straßenverkehrs-Strafrechts im westeuropäischen Bereich. ZVR 1973,
S. 193 ff.

ヤン (Peter Jann)

継次 (Aufsatz)

Die Englandreise österreichischer Richter. öRiZ 1960, S. 165 f.

ヤロシチ (Klaus Jarosch)

リンツの州保健所に勤め、後、ケルン大学法医学研究室講師となしたが、一九七三年には、ザルツブルク大学講師となつてゐる。

Landessanitätsinspektor in Linz, Dozent am Gerichtsmedizinischen Institut der Univ. Köln, dann Univ. Dozent Salzburg gegen 1973.

論文 (Aufsätze)

1. Das Schmerzproblem. öRiZ 1958, S. 109 ff.

2. Die zwangsweise Blutabnahme als medizinisches Problem. ZVR 1960, S. 49 ff.

3. Klaus Jarosch - Otto Müller, Der Wareneinbruch in medizinischer und strafrechtlicher Sicht. öRiZ 1968, S. 39 ff., 59 ff.

4. Agonie und Todeseintritt in ihrer rechtlichen Konsequenz. öRiZ 1971, S. 163 ff.

5. Blendung im Straßenverkehr. öRiZ 1973, S. 130 ff.

フェリクス (Felix Jenzik)

論文 (Aufsätze)

1. Der italienische Oberste Gerichtshof. öRiZ 1966, S. 6 f.

2. Die Stellung der Richter in Belgien. öRiZ 1966, S. 43 f.

ヘンリック (Hans-Heinrich Jescheck)

フライブルク大学教授、フックス・プランク・外国・国際刑法研究所長である。宮澤・前田二三頁以下参照。

op Freiburg i. Br., Direktor des MPI f. ausländisches u. internationales Strafrecht. Vgl. Miyazawa, op. cit., S. 231 ff.

論文 (Aufsätze)

Neue Entwicklungen des deutschen Strafverfahrensrechts im Vergleich mit dem österreichischen. Hundert Jahre, 1973, S. 39 ff.

ヤシオン (Udo Jesionek)

論文 (Aufsätze)

1. Wege und Ziele der richterlichen Standespolitik. öRiZ 1975, S. 185 ff., 1976, S. 25 ff.

2. Die Neuordnung des Richterdienst- und Besoldungsrechts: vor dem Abschluß der ersten Etappe. öRiZ 1978, S. 141 ff.

ユルカ (Karl Jurka)

論文 (Aufsätze)

Zur Entkriminalisierung des Verkehrsstrafrechts. öJZ 1974, S. 486.

カネツカ (Hubert Kadecka)

論文 (Aufsatz)

Gedanken über die Rechtsprechung und ihre staatspolitische Funktion. öJZ 1977, S. 57 ff.

カンマーホーナー (Othmar Kammerhofer)

連邦商業・復興省(後に通商産業省)の部長、局長を歴任し、ユーニオン工業入學講師を兼任する実務家。

Sektionsrat, dann Ministerialrat im Ministerium für Handel, Gewerbe und Industrie, Wien. Lehrbeauftragte an der Technischen Hochschule Wien.

著書 (Schrift)

Straßenverkehrsordnung. 5. Aufl., 1969.

論文 (Aufsätze)

1. Die Straßenverkehrsordnung 1960. ZVR 1960, S. 169 ff., 198 ff.

2. Die Verwaltungsübertretungen nach der StVO 1960. ZVR 1961, S. 1 ff., 29 ff.

3. Bedeutung, Folgen und Grenzen des Vertrauensgrundsatzes. ZVR 1961, S. 145 ff.

4. Ließ sich § 7 StPolG. nicht aufheben? ZVR 1961, S. 246 f.

5. Die Straßenverkehrsordnungs-Novelle 1964. ZVR 1964,

S. 225 ff.

6. Das Kraftfahrrecht im System des Straßenverkehrsrechtes. ZVR 1968, S. 254 ff.

カニヤク (Gustav Kaniak)

連邦行政裁判所と憲法裁判所の判事であつた。本誌四一巻一一一頁、五四頁下段。

Rat des Bundesverwaltungsgerichtshofes u. Mitglied des Bundesverfassungsgerichtshofes. Vgl. Hogaku Kenkyu Bd.

41, Heft 12, S. 54.

主要著書 (Schrift)

Strafgeset. 5. Aufl., 1960.

論文 (Aufsatz)

Über die Beratung und Abstimmung in behördlichen Kollegien. JBl. 1978, S. 470 ff.

カルガー (Irene Karger)

論文 (Aufsatz)

Sozialtherapie an Jugendlichen in der Untersuchungshaft. öJZ 1976, S. 319 ff.

カエロニク (Bruno Kathollnig)

論文 (Aufsatz)

Zur gerichtlichen Vertretung von Gemeinden und Jugendämtern. öRiZ 1969, S. 38 ff.

カーネー (Heinrich Keller)

論文 (Aufsätze)

1. Justiz und Politik. öRiZ 1974, S. 17 ff., 33 ff.
2. Die demokratische Legitimation des Richters. Festschr. f. Broda, 1976, S. 121 ff.

キートンベルグ (Diethelm Kienapfel)

「民法大辞典」第10巻。民事訴訟法・租界の法と行政訴訟

op. Linz. Vgl. Miyazawa, op. cit., S. 275 ff.

論文 (Aufsätze)

1. Frühaborit und Strafrecht. JBl. 1971, S. 175 ff.
2. Der Begriff der Urkunde im österreichischen Strafrecht. Betrachtungen de lege lata und de lege ferenda. JBl. 1973, S. 337 ff.
3. Strafbare Handlungen gegen die Zuverlässigkeit von Urkunden und Beweiszzeichen. (Alternativ-Entwurf). JBl. 1973, S. 493 ff., 557 ff.
4. Die Beweismittel delikte der Regierungsvorlage 1971 zum neuen StGB (Alternativ-Entwurf). öJZ 1973, S. 568 ff.
5. Probleme der Einheitstäterschaft. StProbl. I, 1973, S. 63 ff.
6. Die Einheitstäterege lung der §§ 12 ff und 32 ff StGB. JBl. 1974, S. 113 ff., 180 ff.
7. Aktuelle Probleme der unechten Unterlassungsdelikte. StProbl. II, 1974, S. 77 ff.
8. Die Garantpflichten (§ 2 StGB): System, Voraussetzungen und Grenzen. JBl. 1975, S. 13 ff., 80 ff.
9. Zur Täterschaftsregelung im StGB. Eine Erwiderung auf den gleichnamigen Beitrag von Burgstaller in RZ 1975, 13 ff., 29 ff. öRZ 1975, S. 165 ff.
10. Der rechtfertigende Notstand. öJZ 1975, S. 421 ff.
11. Der rechtfertigende Notstand. StProbl. III, 1975, S. 39 ff.
12. Unrechtsbewußtsein und Verbotsirrtum. öJZ 1976, S. 113 ff.
13. Zur Gleichwertigkeit von Tun und Unterlassen. öJZ 1976, S. 197 ff.
14. Zur Abgrenzung von Tun und Unterlassen. öJZ 1976, S. 281 ff.
15. Die Verletzung der Unterhaltspflicht (§ 198 StGB). öRiZ 1976, S. 46 ff.
16. Dogmatische Probleme der Unzumutbarkeit. Zur Regelung der §§ 94 Abs 3, 95 Abs 2 und 286 Abs 2 StGB. JBl. 1977, S. 530 ff.

17. Imstichlassen eines Verletzten (§ 94 StGB). Wesen, Voraussetzungen, Grenzen. oJZ 1977, S. 425 ff.

18. Zur Auslegung des § 81 Z 1 StGB. öJZ 1977, S. 655 ff.

19. Die Unzumutbarkeit der Hilfeleistung beim Imstichlassen eines Verletzten (§ 94 Abs 3 StGB). öRiZ 1977, S. 65 ff.

20. Die Fahrlässigkeit unter besonderer Berücksichtigung des Straßenverkehrs. Zugleich ein Beitrag zur Lehre von der objektiven Zurechnung. ZVR 1977, S. 129 ff., 162 ff.

21. Die Unterlassung der Hilfeleistung (§ 95 StGB). Wesen, Struktur und Grenzen. ZVR 1977, S. 289 ff.

22. Aussetzung (§ 82 StGB) oder Imstichlassen eines Verletzten (§ 94 StGB) ? öRiZ 1978, S. 4 ff.

キッサー (W. Kissler)

論文 (Aufsatz)

Suchtgifte - Probleme und Methoden des chemischen Nachweises. öRiZ 1973, S. 149 ff.

キーンツハーター (Rudolf Kießwetter)

論文 (Aufsatz)

Wurde bei der „Kleinen Strafrechtsreform“ auf die

Jugendgerichtsbarkeit verfassung ? öJZ 1972, S. 64 ff.

クレーベル (Dieter Klebelsberg)

論文 (Aufsätze)

1. Versuche zu einer Verhaltens-Analyse des Kraftfahrers. ZVR 1964, S. 141 ff.

2. Reaktionszeit des Kraftfahrers. ZVR 1965, S. 317 ff.

クレンキー (Hans R. Klecatsky)

インメンロット大学教授の「憲法・行政法の権威者であったが、
司法大臣を一九六〇年代の後半までやめた」
并發集書 (Schrift)

Bundesverfassungsrecht. 2. Aufl., 1973.

論文 (Aufsätze)

1. Die Bundesverfassungsnovelle über die Straßenpolizei. ZVR 1960, S. 193 ff.

2. Grußworte an die Richter und Staatsanwälte. öRiZ 1966, S. 73.

3. Der Oberste Gerichtshof und das föderalistische Prinzip. öRiZ 1967, S. 113 ff.

4. Gedanken zu einer Neugestaltung des Gnadenrechtes. JBl. 1968, S. 225 ff.

5. Föderalismus und Gerichtsbarkeit. JBl. 1969, S. 13 ff.

6. René Marcic f. JBl. 1971, S. 566 ff.
7. Hans Kelsen f. JBl. 1973, S. 305.

クニーギトハ (Erich Klusmann)

編文 (Aufsatz)
Kriminalpolitische Möglichkeiten des Gnadenrechts. öRiZ
1962, S. 213 ff.

クノイカー (Raoul Kneucker)

編文 (Aufsatz)
Wirksame Rechtsmittel gegen Verletzung der Europäischen
Menschenrechtskonvention. JBl. 1968, S. 598 ff.

クニツトニ (Alois Knittl)

編文 (Aufsatz)
Der Straßenverkehrsunfall aus internationaler Sicht. Be-
urteilung nach österreichischem Recht. ZVR 1973, S.
350 ff.

クニツク (OLGRat Gerhard Kodek, Wien)

ウヤーン少年裁判所判事を巡るウヤーン高裁判事となった人
び少年裁判所法に一家言を述べた。
編文 (Aufsätze)

1. Jugendstrafvollzug und Bewährungshilfe in den USA.
öRiZ 1964, S. 43 ff.

2. Deutscher Jugendgerichtstag. öRiZ 1966, S. 7 f.

3. Zur Reform des Strafvollzuges. öJZ 1970, S. 505 ff.

4. 8. Tagung der österreichischen Jugendrichter. öRiZ
1971, S. 42 ff.

5. Zur Praxis des Jugendstrafrechts. Gedanken zur Reform
des JGG 1961. öJZ 1973, S. 449 ff.

6. Die Untersuchungshaft unter besonderer Berücksichti-
gung der Reformen 1971 und 1972. öRiZ 1974, S. 69 ff.

7. Einige Probleme funktioneller Zuständigkeit im Straf-
verfahren der Gerichtshofe erster Instanz. öJZ 1977,
S. 374 ff.

クーヤ (Friedrich Koja)

編文 (Aufsatz)
Zur Auslegung des § 4 Abs 1 Bundesstrafgesetze 1971.
ZVR 1978, S. 225 ff.

クニ (Rudolf Koll)

編文 (Aufsatz)
Überprüfung des Strafantrages des staatsanwaltschaft-
lichen Funktionärs durch den Richter. öJZ 1972, S. 205 f.

クルペハ (Karl Kollmann)

論文 (Aufsatz)

Die gutachtliche Tätigkeit des Kraftfahrzeug - Sachverständigen unter Berücksichtigung technischer und physikalischer Grenzen. ZVR 1965, S. 303 ff.

クレーマ (Stephan Komar)

論文 (Aufsatz)

Das Verbot der reformatio in peius in Lehre und Rechtsprechung. Hundert Jahre, 1973, S. 59 ff.

クペック (OLGRat Gerhard Kopke, Weiz)

ラインの高級車事件の分析

論文 (Aufsätze)

1. Die Bedeutung der Automatismen für das Verkehrsstrafrecht. ZVR 1970, S. 281 ff.

2. Die Bedeutung der Refrexe für das Verkehrsstrafrecht. ZVR 1971, S. 289 ff.

3. Die Effizienz der StVO 1960. öRiZ 1974, S. 130 ff.

ケルナー (OLGRat Alfred Körner, Graz)

クラীগエンフルト高裁の判事から、シラーム高裁に移った。少年事件の専門家と思われる。

論文 (Aufsätze)

1. Nochmals die „bedingte“ Verweisung in eine Bundesanstalt für Erziehungsbedürftige. öRiZ 1961, S. 150 ff.

2. Der Erziehungsnotstand nach dem Jugendgerichtsgesetz 1961. öRiZ 1962, S. 241 ff.

3. Der Unterhaltsverweigerer und seine strafrechtliche Behandlung. öRiZ 1964, S. 123 f.

4. Einige Vorschläge zur Ergänzung oder Abänderung jugendrechtlicher Bestimmungen. öJZ 1968, S. 202 ff.

クニツト (Kraft)

論文 (Aufsatz)

Recht und Moral. JBl. 1970, S. 543 ff.

クニート (Herbert Kral)

論文 (Aufsatz)

Die Fahrlässigkeitsdelikte. öRiZ 1968, S. 25 ff.

クニッペー (Kramer)

論文 (Aufsatz)

Zum Problem der rechtlichen Motivation. öJZ 1970, S. 564 ff.

クニハルト・クレーマー (Anton Krenstetter)

條文 (Aufsätze)

1. Zur Auslegung des Begriffes „Besserung“ im § 14 Abs.

2 JGG, 1961. öJZ 1970, S. 344 ff.

2. Zur Auslegung der Begriffe „unzüchtig“ und „anstößig“

in den §§ 1 und 2 des Gesetzes vom 31. 3. 1950 BGBl 97

(„PornographieG“). öJZ 1973, S. 92 ff.

エリザベト・クRUNME (Elisabeth Krumme)

條文 (Aufsatz)

Der Begriff der Rücksichtslosigkeit im Verkehrsstrafrecht.

ZVR 1965, S. 117 ff.

ヴラディミール・クルベシュ (Vladimir Kruběš, Prof. Brünn)

條文 (Aufsatz)

Die heutige Sendung der Rechtsphilosophie. öJZ 1975, S.

600 ff.

ヨーゼフ・クニエ (Josef Kühne)

條文 (Aufsatz)

Rechts- und Staatslehre als Wirklichkeitswissenschaft.

Eine Würdigung des österreichischen Rechtsgelehrten Hermann Heller. öJZ 1977, S. 253 ff.

フリドリッヒ・クLKA (Friedrich Kulka)

條文 (Aufsatz)

Allgemeine Verhaltensregel und Vertrauensgrundsatz.

ZVR 1976, S. 133 ff.

グンター・クUNT (Günther Kunst)

検察官「被害者を悪出」後「司法省に入り」参事官として活躍
を述べた。本誌四一巻一四号、四五頁上段。

Justizdienst als Staatsanwalt und Richter, jetzt Ministerialrat im BMJ. Vgl. Hogaku Kenkyu Bd. 41, Heft 12,

S. 55.

片取書 (Schrift)

Foregger-Kunst, Strafvollzugsgesetz, 1970.

條文 (Aufsätze)

1. Die Verkehrsdelikte nach der zweiten Lesung des Strafgesetzentwurfes. ZVR 1962, S. 197 ff.

2. Das Abhören von Telefongesprächen zu Beweis und Fahndungszwecken. ZVR 1963, S. 85 ff.

3. Interpretationsmethode im Strafrecht. JBl. 1971, S. 329 ff.

4. Unbestimmte Zahl- und Maßbegriffe im neuen StGB. öJZ 1975, S. 561 ff.

5. Ärztliche Heilbehandlung und Einwilligung des Verletzten. öRiZ 1975, S. 33.

6. Bewährungshilfe für ältere Erwachsene erst ab 1979?

öRiZ 1976, S. 111 f.

7. Strafbemessung, Tatschuld und Spezialprävention. öJZ 1977, S. 481 ff.

8. Fragen der Strafbemessung in der Rechtsprechung des Obersten Gerichtshofes. öRiZ 1978, S. 117 ff.

ト・ユ (Oberstaatsanwaltstellvertreter Mario Larch, Innsbruck)
継次 (Aufsätze)

1. Entwicklung der Strafrechtspflege in Tirol und Vorarlberg. Hundert Jahre, 1973, S. 73 ff.

2. Bemerkungen zum Diebstahl. öJZ 1976, S. 388 ff.

ト・ハ・ト (Staatsanwalt Heimo Lambauer, Graz)
継次 (Aufsätze)

1. Der Rechtswidrigkeitszusammenhang als Problem des Verkehrsstrafrechts. Eine kritische Betrachtung der Judikatur. ZVR 1971, S. 225 ff.

2. Anklageprozeß und Anklagemonopol nach dem Finanzstrafgesetz. Hundert Jahre, 1973, S. 95 ff.

3. Reformbedürftige Staatsanwaltschaft? öRiZ 1977, S. 137 ff.

ト・ハ・ト (Erhard Lanner)

継次 (Aufsatz)

Zur Frage der Bindung des Zivilrichters an strafrechtliche Erkenntnisse. ZVR 1958, S. 204 f.

ト・ユ・ト (W. Laubichler)

継次 (Aufsatz)

Laubichler-Sorgo, Zur Problematik einer gerichtsrätlichen Einstufung von Gehirnschütterungen für das Strafverfahren. öRiZ 1973, S. 5 ff.

ユ・ト (Ernst Lecher)

継次 (Aufsatz)

Kurs des Straßenverkehrsrechtes in Mantua vom 22. bis 29. März 1959. öRiZ 1958, S. 77 f.

ト・ト・ト (Karl Leitenberger)

継次 (Aufsatz)

Ausländerpolizeiliche Probleme in der Bundesrepublik Deutschland. öRiZ 1965, S. 106 ff.

リムトナー (Gerwald Lentner)

論文 (Aufsatz)

Die Bestrafung der Abtreibung in historischer Sicht. öRiZ 1973, S. 191 ff.

リムトナー (Univ.-Doz. Hermann Lenz, Linz)

論文 (Aufsatz)

Das Ausmaß der Schuldfähigkeit beim neurotischen bzw. psychopathischen Delinquenten. JBl. 1973, S. 25 ff.

リムトナー (Viktor Liescher)

ホーネットの犯罪学及び犯罪学総論と並び。本誌四一巻一一一頁。『犯罪学』

Generalprokurator, vgl. Hogaku Kenkyu, Bd. 41, Heft 12, S. 55.

論文 (Aufsätze)

1. Betrug im Gebrauchtwagenhandel. ZVR 1965, S. 85 ff.

2. Die zwischenstaatliche Ahndung von Verkehrsdelikten.

ZVR 1965, S. 295 ff.

3. Strafverfolgung und Menschenrechte. JBl. 1969, S. 465 ff.

4. Rechtsvergleichende Analyse der Geschworenengerichtsbarkheit. öJZ 1970, S. 253 ff.

5. „Religiöses Gefühl“ und Strafgesetz. JBl. 1971, S. 114 ff.

6. 100 Jahre Juristische Blätter. JBl. 1972, S. 113 ff.

7. Kraftfahren und internationales Strafrecht. ZVR 1972, S. 1 ff.

8. Die räumliche Geltung des Strafrechts nach der RV 1971 und das Verkehrsstrafrecht. ZVR 1973, S. 330 ff.

9. Aus der Geschichte der Generalprokuratorur. Hundert Jahre, 1973, S. 107 ff.

10. Die neue Struktur des Internationalen Strafrechts (§§ 62 bis 67 StGB). JBl. 1974, S. 393 ff.

11. Selbstherrliches Mieten-Strafrecht. Bemerkungen zum „Hatusverwalterurteil“ 11 Os 1/74. JBl. 1975, S. 522 ff.

12. Zwischenbilanz der Judikatur zum neuen StGB. JBl. 1976, S. 565 ff.

13. Menschenrecht in neuer Sicht! Die Resolutionen des Wiener Kolloquiums zum XII. Internationalen Strafrechtskongress. JBl. 1978, S. 505 ff.

リムトナー (Walter F. Lindacher)

論文 (Aufsatz)

Konventionalstrafe und „Vergütungsbruch“. JBl. 1973, S. 135 ff.

リンケ (Robert Linke)

司法省勤務中の裁判官出身の実務家。交通問題の専門家である。本誌四一巻一四号、五五号掲載。

論文 (Aufsätze)

1. Die Abhandlung von Verkehrsstrafaten in zwischenstaatlicher Sicht. ZVR 1960, S. 265 ff.
2. Ein Europäisches Übereinkommen über die Bestrafung von Verkehrsdelikten. ZVR 1965, S. 29 ff.
3. Das Europäische Übereinkommen über die Rechtshilfe in Strafsachen. öJZ 1968, S. 286 ff.
4. Zwischenstaatliche Kompetenzkonflikte auf dem Gebiet des Strafrechts. Aktuelle Probleme des Internationalen Strafrechts. Festschr. f. Grütznher, 1970, S. 85 ff.
5. Die internationale Konferenz über die widerrechtliche Inbesitznahme von Luftfahrzeugen (Den Haag, 1.-16. 12. 1970). ZVR 1971, S. 57 ff.
6. Entwicklungstendenzen des zwischenstaatlichen Verkehrsstrafrechts. ZVR 1974, S. 97 ff.
7. Internationaler Terrorismus als Rechtsproblem. öJZ 1976, S. 230 ff.
8. Das Europäische Übereinkommen zur Bekämpfung des Terrorismus vom 27. Jänner 1977. öJZ 1977, S. 232 ff.

ヨーロッパ刑事法論の一編

ホルン・ローレン (Edwin Loebenstein)

論文 (Aufsatz)

Die Freiheit der Wissenschaft und ihrer Lehre. öJZ 1974, S. 253 ff.

ヘルベール・ローレン (Herbert Loebenstein)

論文 (Aufsatz)

Die strafrechtliche Haftung des Arztes bei operativen Eingriffen. öJZ 1978, S. 309 ff.

ローレ (Roland Loewe)

論文 (Aufsatz)

Die Geltendmachung zivilrechtlicher Ansprüche im französischen Strafprozeß. öRiZ 1956, S. 23 ff.

ローレンツ (Wolfgang Lotheissen)

ローレンの最高検検事、後に検事総長に選出された。グナムスルン・ウーデの交通刑法に発言がある。

Generalanwalt, dann Generalprokurator, Wien.

論文 (Aufsätze)

1. Reform des Vorverfahrens im österreichischen Strafprozeß. öRiZ 1962, S. 2 ff.

104 (四四四)

6. Vergleichende Darstellung der Strafbarkeit der Verkehrsunfallflucht und der unterlassenen Hilfeleistung im deutschen und österreichischen Recht. ZVR 1960, S. 51 ff.

7. Der Vertrauensgrundsatz. öRiZ 1963, S. 37 ff.

8. Die strafbare Unterhaltsgführung. öRiZ 1965, S. 133 ff.

フハチエク (Rudolf Machacek)

論文 (Aufsatz)

Die Wiederaufnahme des Strafverfahrens de lege ferenda.

JBl. 1976, S. 19 ff.

フニニウク (Wilhelm Malaniuk)

一九〇六年六月二六日、フランツェンスバート近郊のオーヘルンドルフに生まれ、一九六五年二月二六日、ウィーンで死去した。

ウィーン大学で法学を学び、一九二九年には学位を取得している。一九二九年に裁判官の生活に入り、以後、裁判官として活躍したが、一九三七年に検察官に転じた。

一九五五年には、ウィーン地裁所長となった。そして一九六三年には、ウィーン高裁所長となった。一九五七年以降、ウィーン商科大学で経済刑法を講義し、一九六五年六月には、同大学の名誉教授になったが、その年に急逝した。本誌四一卷一二号、五五頁上段。
Geboren am 26. 6. 1906 und verstorben am 26. 12. 1965 in

Wien. Jura-Studium in Wien 1925, Dr. jur. 1929, 1929 Gerichtspraxis, 1933 Richter, 1937 Staatsanwalt. 1955 Präsident des LG Wien, 1963 Präsident des OLG Wien. Honorarprofessor an der Hochschule für Welthandel, 1965. Vgl. Hogaku Kenkyu Bd. 41, Heft 12, S. 55.

Nekrologe: A. Hradetzky, Oberlandesgerichtspräsident Dr. Wilhelm Malaniuk †. öRiZ 1966, S. 25; Liebscher, JBl 1966, S. 76.

主要著作 (Schriften)

Lehrbuch des Strafrechts. Bd. 1, Allg. Teil, 1947; Bd. 2,

Bes. Teil, 2 Bde, 1948, 1949.

論文 (Aufsatz)

Die Verkehrsdelikte im Strafgesetzentwurf. ZVR 1959,

S. 201 ff., 221 ff.

フン (Paul Mann)

論文 (Aufsatz)

Praktische Winke für den Richter bei der Durchführung des Gnadenverfahrens und der Anlegung der Gnadentabelle. öRiZ 1963, S. 117 ff.

マルチッチ (René Marcic)

一九一九年にウィーンで生まれ、一九七一年一月二日、夫人と

ともに航空機事故で死去した。ウィーンとザルツブルグの法学者・哲学者を卒ひ、法学博士の学位を取得したが、一九四六年にザルツブルグ新聞社に入社し、ジャーナリストとしての活躍の多くの著作を発表した後、一九六三年にザルツブルグ大学哲学学術教授となった。そして、同大学に法学部が設立されて後、同学部の教授としての活躍をこぼした。本誌四一巻二二頁、五五頁上段。

Geboren 1919 in Wien und verstorben am 2. 10. 1971. Nach der Tätigkeit als Journalist oP an der philosophischen Fakultät der Universität Salzburg 1963, dann an der juristischen Fakultät daselbst.

Nachruf: H. R. Kleczakzy, René Marcic †. JBl 1971, S. 566 ff.

Dimensionen des Rechts. Gedächtnisschrift für R. Marcic, 1974.

刊論集 (Schriften)

Vom Gesetzesstaat zum Richterstaat, 1957.

Verfassung und Verfassungsgericht, 1963.

Verfassungsgerichtsbarkeit und Reine Rechtslehre, 1966.

Rechtsphilosophie, 1969.

論文 (Aufsätze)

1. Der Richter in der Demokratie. oRIZ 1968, S. 5 ff.

2. Der Richter in der Demokratie. JBl. 1968, S. 393 ff.,

S. 450 ff.

3. Die Bedeutung der Rechtsphilosophie im Ganzen der Rechtswissenschaft. Gedanken zur Fortgestaltung des Jurastudiums in Österreich. öJZ. 1968, S. 169 ff.

4. Gustav Radbruch und Hans Kelsen. Gedächtnisschr. f. Radbruch, 1968, S. 82 ff.

5. Staat-Verbände-Wissenschaft. JBl. 1969, S. 361 ff.

P 226 (Hans F. Marek)

論文 (Aufsatz)

Die Problematik der Strafbarkeit des Schwarzfahrens in schaffnerlosen Verkehrsmitteln. öJZ 1975, S. 261 ff.

P 226 (Prof. Dr. med. Wolfgang Maresch, Graz)

論文 (Aufsatz)

Der Verkehrsunfall in gerichtsmedizinischer Sicht. ZVR 1965, S. 254 ff.

P 226 (Ernst Markel)

論文 (Aufsatz)

Durchbricht § 35 JGG 1961 die perpetuatio fori? oRIZ 1976, S. 43 ff.

P 226 (Ministerialrat im BMJ Karl Marschall)

博覧強記の著者である。本誌に「新」の風を醸成°
Vgl. Hogaku Kenkyu Bd. 41, Heft 12, S. 55.

○(Aufsätze)

1. Marschall u. Orlik, Die Tathandlung des „Anskundschafens“ nach 567 StG in der praktischen Anwendung. öJZ 1970, S. 385 ff.

2. K. Marschall u. F. Salomon, Die neuen Quälereitabstände. öJZ 1972, S. 449 ff., 482 ff., 512 ff.

3. Grundsatzfragen der Schwangerschaftsunterbrechung im Hinblick auf die verfassungsgesetzlich gewährleistetsten Rechte auf Leben. JBl. 1972, S. 497 ff.

4. Ein halbes Jahrhundert Bundesverfassung im Lichte der Reinen Rechtslehre. (Zugleich Besprechung und Würdigung der Grundzüge von Robert Walter, Österreichisches Bundesverfassungsrecht. öJZ 1974, S. 233 ff.)

5. Marschall u. Adalbert Vitek, „In dubio mitius“ als Auslegungsrundsatz im neuen Strafrecht. öJZ 1974, S. 389 ff., 425 ff., 449 ff.

6. Unbestimmte geldwerte Grenzbeträge, insbesondere Wertgrenzen, im StGB. öJZ 1975, S. 459 ff.

7. Die Strafrechtsauslegung im wissenschaftlichen Meinungsstreit von Theorie und Praxis. öJZ 1977, S. 9 ff.

○(Aufsätze)

○(Aufsätze)

R. Hartmann u. H. Martinshausen, Ursachen, Prognose und Bekämpfung der Jugendkriminalität im Lichte der Statistik. öRiZ 1964, S. 167 ff.

○(Franz Matscher)

○(Aufsätze)

Albert A. Ehrenzweig f. JBl. 1975, S. 363 ff.

○(Heinz Mayer)

○(Aufsätze)

Ist der Landesgesetzgeber nach Art 10 Abs 2 B-VG zuständig, ohne ausdrückliche Ermächtigung durch einfaches Bundesgesetz, Strafbestimmungen zu erlassen? JBl. 1974, S. 459 ff.

○(Prof. Theo Mayer-Maly, Salzburg)

○

○(Aufsätze)

1. Auslegen und Verstehen. JBl. 1969, S. 413 ff.
2. Der Rechtsdenker Marcic. Gedächtnisschr. f. Marcic, 1974, S. 194 ff.

3. Schädigung durch Unterlassung insbesondere durch un-
terlassene Hilfeleistung bei Verkehrsunfällen. ZVR
1977, S. 97 ff.

トヤヤーホーナー (Christoph Mayerhofer)

同法省参事官から同法次官を轉ぐべしとの実務家による。

Ministerialsekretär im BMJ.

州監察廳 (Schriften)

Der Kraftfahrzeugdiebstahl und verwandte Delikte, 1961.

Mayerhofer-Rieder, Das österreichische Strafrecht, 1974.

論文 (Aufsätze)

1. Beschlagnahme von Postsendungen. öJZ 1968, S. 235 f.

2. Vorverfahren und Untersuchungshaft. öJZ 1968, S. 383

f.

3. Die Raubkriminalität in Österreich. öRiZ 1968, S. 81 ff.

4. Die Beurteilung der Persönlichkeit des Rechtsprechers

durch den Strafruristen. öRiZ 1969, S. 196 ff., 1970, S.

6 ff.

5. Zur Problematik der strafrechtlichen Repression bei

Verkehrsunfällen. Einige kritische Anmerkungen. ZVR

1970, S. 29 f.

6. Die Grenzen der straflosen Verteidigung gegen die sta-
atliche Strafverfolgung. öJZ 1973, S. 375 ff.

7. Der Gebrauch der Schußwaffe durch Sicherheitsorgane.
öJZ 1977, S. 449 ff.

トントー (Heinz Maurer)

論文 (Aufsatz)

Blutalkoholforschung und Rechtspflege, ZVR 1970, S. 57 ff.,

85 ff.

メルニツ (Melnitz)

論文 (Aufsatz)

Kritische Bemerkungen zur Sicherungsverwahrung nach

§ 23 RV 1971. JBl. 1972, S. 465 ff.

メルニッキー (Generalanwalt Walter Melnicky)

カーテンの築造による最高検察事務員たる実務家による。

論文 (Aufsätze)

1. Wahrheitswidrige Anpreisung und Kilometerstandma-
nipulation bei Gebrauchtfahrzeugen in strafrechtlicher

Sicht. ZVR 1964, S. 229 ff.

2. Zur Auslegung des § 337 lit. a Strafgeset. ZVR 1967,

S. 253 ff.

3. Die Irrtumsregelung. öRiZ 1968, S. 13 ff.

4. Der strafrechtliche Subjektsschutz im Bereich von

- 1975, S. 77 ff.
3. Reinhard Moos-Karlheinz Probst, Einführung in das österreichische Strafrecht. Erfahrungen zum Lernprogramm von Kienapfel. öJZ 1976, S. 63 ff.
4. Die gesellschaftliche Funktion des Strafrechts und die Strafrechtsreform. öRiZ 1977, S. 229 ff.

ホーネマン (Hermann Mosler)

論文 (Aufsatz)

- Übergabe der Internationalen Festschrift zum 80. Geburtstag von Alfred Verdross. JBl. 1971, S. 411 ff.

ホーネマン (Otto F. Müller)

ホーネマンの検察官の経験。最高検検事になった。ホーネマン検察官の経験の回顧。

Generalanwalt, Wien. Präsident des Vereines österreichischer Staatsanwälte.

論文 (Aufsätze)

1. Dürfen unsere Kinder allein nach Hause gehen? ZVJR 1967, S. 229 ff.
2. Klaus Jarosch u. Otto Müller, Der Warendausdiebstahl in medizinischer und strafrechtlicher Sicht. öRiZ 1968, S. 39 ff., 59. ff.

3. Die Standesorganisation der Staatsanwälte. Hundert Jahre, 1973, S. 133 ff.

4. Die Zulässigkeit des Einsatzes staatlicher Gewalt in Ausnahmesituationen aus der Sicht des österreichischen Strafrechts öRiZ 1976, S. 1 ff.

ホーネマン・ディエツ (Heinz Müller-Dietz)

キール大学教授の経験。京大・前田四一丸頁以下。op Saarbrücken. Vgl. Miyazawa, op. cit., S. 419 ff.

論文 (Aufsatz)

Kriminalpolitische und dogmatische Probleme des Strafaufhebungsgrundes der tätigen Reue (§ 167 StGB). öJZ 1977, S. 343 ff.

ムツ (Gerrfried Mutz)

論文 (Aufsatz)

Rechtsprobleme des sogenannten Datenschutzes. JBl. 1973, S. 245 ff.

ナグ・ハグ (Ingrid Nargang)

論文 (Aufsatz)

Jugendrichter in Paris. öRiZ 1971, S. 91 ff.

ネクハタール (Paul Nechvatal)

論文 (Aufsatz)

Schottisches Strafprozessrecht-Studienaufenthalt in Edinburgh. *oRiz* 1978, S. 187.

ネスター (Walther Nester)

論文 (Aufsätze)

1. Das österreichische Straßenverkehrsrecht. *ZVR* 1961, S. 150 ff., 170 ff., 196 ff., 224 ff.

2. Verkehrsföderalismus. *ZVR* 1963, S. 8 ff.

ノヴォホフスキー (Friedrich Nowakowski)

一九一四年一〇月一五日、ブダペストに生れた。一九四八年、ブダペスト大学私講師。一九五二年員外教授を授け、一九五六年に正教授となり、今日に至るまで。本誌四一巻一三頁、五五頁に發。

Geboren am 15. 10. 1914 in Wien, UPD Innsbruck 1948, aOP 1952, oP 1956.

Vgl. *Hogaku Kenkyu* Bd. 41, Heft 12, S. 55.

并發報章 (Schriften)

Portgesetztes Verbrechen und gleichartige Verbrechensmenge, 1950.

Das österreichische Strafrecht in seinen Grundzügen, 1955.

Das österreichische Strafrecht. Das ausländische Strafrecht der Gegenwart, Bd. 3, 1959, S. 415 ff.

論文 (Aufsätze)

1. Zur Systematik der Lehre von den Erscheinungsformen des Verbrechens nach der subjektiven Auffassung. *Festschr. f. Rittler*, 1946, S. 22 ff.

2. Freiheit, Schuld und Vergeltung. *Festschr. f. Rittler*, 1957, S. 55 ff.

3. Zur Rechtsstaatlichkeit der vorbeugenden Maßnahmen. *Festschr. f. v. Weber*, 1963, S. 98 ff.

4. Die Problematik eines Strafgesetzentwurfes unter besonderer Berücksichtigung des österreichischen Entwurfes. Zur österreichischen Strafrechtsreform, 1965, S. 9 ff.

5. Der deutsche Alternativentwurf und die österreichische Strafgesetzreform. *oRiz* 1967, S. 171 ff.

6. Zur Strafrechtsreform in Österreich. *oRiz* 1969, S. 139 ff.

7. Zur Auslegung des § 337 lit a und b StG. *ZVR* 1970, S. 170 ff.

8. Probleme der Strafrechtsdogmatik. *JBl.* 1972, S. 19 ff.

9. Das Tagesbußensystem nach § 19 der Regierungsvorlage (1971) eines Strafgesetzbuches. *oJZ* 1972, S. 197 ff.

10. Die Zurückdrängung der kurzen Freiheitsstrafe in der RV 1971. *oJZ* 1973, S. 1 ff., 34 ff.

11. Die Bedeutung von Entwürfen und Regierungsvorlagen

- für die Auslegung des geltenden Strafrechts. öRiZ 1973, S. 2 ff.
12. Zum Verständnis des Anklageprozesses bei der Ausarbeitung der Strafprozeßordnung 1873. Hundert Jahre, 1973, S. 151 ff.
13. Ein Gang durch Probleme der Kriminalwissenschaft - en-Besprechung der Festschrift für Ernst Heinitz zum 70. Geburtstag. öJZ 1974, S. 617 ff.
14. Probleme der Strafzumessung. StrProbl. II, 1974, S. 167 ff.
15. Entziehung der Lenkerberechtigung und Fahrverbot. Zusätzliche Überlegungen zu einem jüngst erschienenen Aufsatz. ZVR 1975, S. 257 f.
16. Die Maßnahmenkomponente im StGB. Festschr. f. Broda, 1976, S. 193 ff.
17. Zur subjektiven Tatseite der Rechtfertigungsgründe. öJZ 1977, S. 513 ff.
- ホムナパー (G. Nurscher)
編入 (Aufsatz)
Rückfallsdiebstahl und bedingte Verurteilung. JBl. 1971, S. 81 ff.

- ホムンター (Otto Obauer)
編入 (Aufsatz)
Vorbeugende Maßnahmen. öRiZ 1968, S. 30 ff.
- ホーグムント (Richard Obendorf)
本誌 四 | 巻 | 1 | 号 ' 四 | 頁 | 四 | 段。
編入 (Aufsatz)
Tagung der Tiroler Jugendrichter. öRiZ 1966, S. 19 ff.
- ホフホムンター (Franz Obholzer)
編入 (Aufsatz)
Das Kind im Straßenverkehr. ZVR 1978, S. 1 ff.
- ホーハナパー (Theo Öhlinger)
編入 (Aufsatz)
Zur Kompetenzlage auf dem Gebiet des Straßenverkehrs. Insbesondere zu den Kompetenzatbeständen „Kraftfahrwesen“ und „Straßenpolizei“. ZVR 1978, S. 321 f.
- ホクムヤク (Wolf Okresek)
編入 (Aufsatz)
Neue Wege im Verkehrsstrafrecht. Stellungnahme zur Unfallursachenstatistik des HUK-Verbandes auf der 5. Ver-

Kehrjuristentagung in München - Tagungsbericht. ZVR 1973, S. 279 ff.

オハム (Denis S. K. Ong)

論文 (Aufsatz)

Der Begriff der Norm bei Hans Kelsen. öJZ 1977, S. 169 ff.

オルリク (Peter Orlik)

論文 (Aufsatz)

Orlik u. Marschall, Die Tathandlung des „Auskundschaftens“ nach § 67 StG. in der praktischen Anwendung. öJZ 1970, S. 385 ff.

パリン (Franz Pallin)

検事総長から最高裁長官になった実務界の第一人者である。Generalprokurator, jetzt Präsident des Obersten Gerichtshofes.

論文 (Aufsätze)

1. Die Grenzen des Weisungsrechtes gegenüber den Staatsanwälten und die Kontrolle der Ausübung dieses Rechtes. öRIJ 1966, S. 187 ff.
2. Ehebruch und Ehelösung in strafrechtlicher Sicht. öRIJ 1970, S. 114 ff.

3. Persönlichkeitsschutz und Massenmedien. JBl. 1972, S. 393 ff.

4. Amtsgeheimnis und Redaktionsgeheimnis. öJZ 1973, S. 141 ff.

5. Die Nichtigkeitsbeschwerde zur Wahrung des Gesetzes. Hundert Jahre, 1973, S. 167 ff.

6. Oberster Gerichtshof und Generalprokurator. Festschr. f. Broda, 1976, S. 215 ff.

ペルハタール (Peter Pernthaler)

論文 (Aufsatz)

Die Zuständigkeit zur Regelung der Angelegenheiten der Prostitution. öJZ 1975, S. 287 ff.

プレムプター (Helfried Pfeifer)

論文 (Aufsatz)

Das neue österreichische Asylrecht. Erfüllte und unerfüllte Wünsche. JBl. 1969, S. 57 ff.

ピクラー (Helmut Pichler)

論文 (Aufsätze)

1. Die Grenzen des aufgenommenen Verfahrens. JBl. 1970, S. 462 ff.

2. Zur Rechtsnatur der Skiregeln. öRiZ 1972, S. 193 ff.

ユルナー＝ピヒラー (Erwin Pichler-Drexler)

「ヨーロッパの刑事弁護士の発展」本誌四一巻一四号「五十五頁」
「五十六頁」以下。
Verteidiger in Strafsachen, Graz. Vgl. Hogaku Kenkyu

Bd. 41, Heft 12, S. 55 f.

論文 (Aufsätze)

1. Die echte bedingte Verurteilung nach § 13 öJGG.: Kritik
und Folgerungen. öRiZ 1956, S. 33 ff.

2. Die Subsidiaritätsklausel im Verwaltungsstrafrecht
unter Bedacht auf § 111 Kräfahrgesetz 1955. ZVR
1956, S. 161 ff, 179 ff.

3. Zum Begriff der Inbetriebnahme nach § 465 b StG. ZVJR
1958, S. 221 f.

4. Der Mangel einer Wideranklage im österreichischen
Strafprozeß. öRiZ 1959, S. 37 ff.

ヨーゼフ (Josef Piegler)

「ウィーン高裁判事を通じて」最高裁判事となった人であり、「オース
トリア裁判官連合の新聞報道担当を通じて」。

OLG Rat Wien, dann Hofrat im OGH.

論文 (Aufsätze)

1. Der österreichische Oberste Gerichtshof in England.
öRiZ 1963, S. 201 f.

2. Im Flug durch Deutschland. öRiZ 1964, S. 21 ff.

3. Juristische Dokumentation. öRiZ 1967, S. 1 ff.

4. Die Richter und ihre Zeitung. öRiZ 1967, S. 77.

5. Revision und Revisionsgericht. öRiZ 1968, S. 97 f.

6. Die Zukunft des Obersten Gerichtshofes. öRiZ 1968, S.
149 ff.

7. Abschaffung der Gerichtsferien? öRiZ 1972, S. 177.

8. Das Richtertum in den Verfassungen Europas. (Zugleich
eine Besprechung des Buches „Die Verfassungen
Europas“ von P. C. Mayer-Tasch, 2. Aufl., 1975). öRiZ
1976, S. 85 f.

ユーンハナー (Walter Pieringer)

論文 (Aufsätze)

Bedingte Verurteilung zu einem Teil der Hauptstrafe?
JbI. 1969, S. 143 f.

ユルグロフ (Arno Pilgram)

一九七三年に創立された「ノットウ・マッピ・ホルツマン」犯罪社会学
研究所員である。

主要著作 (Schriften)

A. Pilgram-H. Steinert, Zur Soziologie der Rechts- und

Kriminalitätsentwicklung, 1974.

A. Pilgram, Das Interesse an der bedingten Entlassung Strafgefangener, 1975.

do., Richterliche Kriterien und Erfolg der bedingten Entlassung Strafgefangener, 1974.

do., Das Entscheidungsverfahren bei der bedingten Entlassung Strafgefangener, 1976.

A. Pilgram-W. Stangl, Zwei Strategien zur Verminderung des Durchschnittsbelages und der Frequenz von Gefangenenhäusern in Österreich, 1974.

A. Pilgram, Kriminalität in Wien, 1975.

do., Kriminalität in Österreich 1953-1974. 2 Teilberichte, 1976.

do., Kriminalstatistiken als Quellenmaterial für eine Geschichte der Kriminalitätsentwicklung, 1977.

do., Theorie der Kriminalitätsentwicklung: Retardierter Sproß der Kriminologie, 1978.

羅× (Aufsätze)
1. Einige Aspekte der Entscheidungsproblematik bei der bedingten Entlassung Strafgefangener. öJZ 1975, S. 387 ff.

2. Materialien zur Praxis der bedingten Entlassung seit der Strafrechtsreform - Unpolemisches zu einem ange-

feindeten Rechtsinstitut. öRiZ 1978, S. 182 ff.

リノホ (Reinhold Pilz)

羅× (Aufsatz)

Die Beteiligung Jugendlicher an Straßenverkehrsunfällen. Versuch einer Klarstellung. ZVR 1966, S. 263 ff.

カキカ (Karl Piska jun.)

カキカノ今年裁判所報告と今年犯罪の統計家と犯罪の統計家と犯罪。本誌四一巻一三号、五七頁以下。

Richter im JG Wien, LGRat, Wien. Vgl. Hogaku Kenkyu Bd. 41, Heft 12, S. 56.

羅× (Aufsatz)

1. Der 11. Deutsche Jugendgerichtstag vom 22. bis 24. Oktober 1959 in Berlin. öRiZ 1959, S. 181 ff.

2. Zur Frage des Kostenersatzes im Strafverfahren in Jugendsachen. öRiZ 1960, S. 131 f.

3. Zu den Bestimmungen des Jugendgerichtsgesetzes 1961 über den bedingten Strafnachlaß wegen einer freilheitsentziehenden Erziehungsmaßnahme. öRiZ 1961, S. 185 ff.

4. Welche Neuerungen brachte die Zuständigkeitsvorschrift des § 33 Jugendgerichtsgesetz 1961 für das Verfahren

- in Jugendstrafsachen? öRiZ 1962, S. 69 ff.
5. Zur Auslegung der §§ 36 Abs. 1 JGG. 1949 und 37 Abs. 1 JGG. 1961 über die Präventivhaft in Jugendstrafsachen. öRiZ 1962, S. 120 ff.
6. Die vierte Tagung der österreichischen Jugendrichter in Linz. öRiZ 1963, S. 66 ff.
7. Über einige auch für den allgemeinen Strafrichter bedeutsame Verfahrensvorschriften des Jugendgerichtsgesetzes 1961. öRiZ 1964, S. 83 ff.
8. Nochmals: Der Unterhaltsverweigerer und seine strafrechtliche Behandlung. öRiZ 1964, S. 191 ff.
9. Fortdauernde Haft wegen Wiederholungsgefahr? öRiZ 1965, S. 75 ff.
10. Die fünfte Tagung der österreichischen Jugendrichter vom 6. bis 9. Oktober 1964 in Eisenstadt. öRiZ 1966, S. 1 f.
- フリントグムパー** (Winfried Platzgummer)
一九三〇年一〇月二六日、ホーフガシュタインに生まれた。インスブルック大学に学び、一九五五年に学位を取得し、一九六四年に、教授資格をえた。一九六六年、ウィーン大学員外教授、一九六八年、正教授となった。本誌四一卷一二号、五六頁上段。
Geboren am 16. 10. 1930 in Hofgastein. Dr. jur. 1955,

Habil. Innsbruck 1964, aop Wien 1966, op 1968.

Vgl. Hogaku Kenkyu, Bd. 41, Heft 12, S. 56.

并願論文 (Schriften)

Die Bewußtseinsform des Vorsatzes, 1964. (Habilitation)

Grundzüge des österreichischen Strafprozessrechts, 2. Aufl. 1975.

論文 (Aufsätze)

1. Die „Allgemeinen Bestimmungen“ des Strafgesetzentwurfes im Licht der neueren Strafrechtsdogmatik. JBl. 1971, S. 236 ff.

2. Vorsatz und Unrechtsbewußtsein. StProbl. 1, 1973, S. 35 ff.

ヨーナ (Toni Pöhl)

論文 (Aufsätze)

1. Tatfragen und Rechtsfragen im Strafrecht. öJZ 1968, S. 542 ff.

2. Die Gefahr im Strafrecht. öJZ 1969, S. 620 ff.

3. Zum Vorsatz im neuen Strafgesetzbuch. öJZ 1974, S. 482 ff

プローブスト (Karlheinz Probst)

グラーツ大学の助手である。ラベリング論の源流として、グラーツ大学の教授だったユリウス・ヴァルガの著書の意義を解明し、注目されてる。

繼次 (Aufsätze)

1. Entziehung der Lenkerberechtigung und Fahrverbot.
ZVR 1975, S. 129 ff.

2. R. Moos u. Karlheinz Probst, Einführung in das österreichische Strafrecht. Erfahrungen zum Lernprogramm von Kienapfel. öJZ 1976, S. 63 ff.

3. Die Vererblichkeit der Geldstrafe. öJZ 1977, S. 598 ff.

4. Der Labeling-approach. Eine österreichische kriminologische Theorie. öRiZ 1977, S. 45 ff.

フロクト (Manfred Proske)

繼次 (Aufsätze)

1. Ist die Verhängung der Untersuchungshaft im Zuge von Vorverhandlungen wirklich unzulässig? öJZ 1968, S. 380 ff.

2. Der strafrechtliche Ehrenschutz im Lichte des Entwurfes eines Mediengesetzes. öJZ 1977, S. 1 ff.

クントホムニー (R. Quatember)

繼次 (Aufsatz)

K. Gloning-R. Quatember, Sprachstörungen und Aussagetüchtigkeit bei Gericht. öRiZ 1974, S. 201 ff

リッペンハ (Richard Rappan)

繼次 (Aufsatz)

Die Straffreiheit wegen Sachschadensmeldung. ZVR 1964, S. 169 ff.

ラウハナー (Prof Dr. Manfred Rehbinder, Zürich)

繼次 (Aufsatz)

Über den Nutzen der Rechtssoziologie für die Rechtspraxis. öJZ 1975, S. 565 ff.

リツヒナシユ=フリクトニク (Fritz Reichert-Facillides)

繼次 (Aufsatz)

Betrachtungen über vergleichendes und geschichtliches Rechtsdenken. JBl. 1973, S. 393 ff.

リッヒツハナー (Karl Reidinger)

繼次 (Aufsatz)

Die Stellung der Sicherheitsbehörden im gerichtlichen Vorverfahren. Hundert Jahre, 1973, S. 185 ff.

リツユツニ (Otto Reidl)

繼次 (Aufsatz)

Der Straßenverkehrsunfall aus internationaler Sicht. Beurteilung nach rumänischem Recht. ZVR 1973, S. 358.

トヤハセトシ (Peter Reindl)

継次 (Aufsatz)

Die Hilfeleistungspflicht beim Verkehrsunfall und die

Kenntnis „Lebensrettender Sofortmaßnahmen“. ZVR 1977,

S. 321 ff.

トヤクキートー (Wolfgang Reishofer)

継次 (Aufsätze)

1. Die „Bewährungshilfe“ aus der Sicht des Richters.

öRiZ 1960, S. 125 ff.

2. Das Haager Straßenverkehrsübereinkommen. ZVR 1977,

S. 33 ff.

トヤクナ (H. Reisner)

継次 (Aufsatz)

Probleme der Beurteilung der strafrechtlichen Zurech-

nungs-(un-)fähigkeit unter besonderer Berücksichtigung des

Strafgesetzentwurfes vom klinisch-psychologischen Stand-

punkt. öJZ 1973, S. 262 ff.

トヤシハナ (Leo Reisinger)

継次 (Aufsätze)

1. Methodenprobleme der Rechtsinformatik. öJZ 1974, S.

35 ff.

2. Rechtsinformatik. Ein Überblick. JBl. 1975, S. 68 ff.

トヤシハナ (Ministerialrat im BMJ Gottfried Reissig)

裁判官の役割 裁判官の職務と責任。本誌 111
号 1974年4月号。

Vgl. Hogaku Kenkyu Bd. 41, Heft 12, S. 56.

州際輻輳 (Schriften)

Jugendgerichtsgesetz (ohne Jahr)

Jugendgerichtsgesetz (Ergänzungsheft), 1974.

継次 (Aufsätze)

1. Der Tatbestand nach § 1 des Unterhaltsschutzgesetzes

(BG. vom 4. Februar 1925, BGBl. Nr. 69) und seine

Anwendung im Strafverfahren. öRiZ 1955, S. 134 ff.,

155 ff.

2. Neuerungen im Jugendgerichtsgesetz 1961. öJZ 1969,

S. 657 ff.

3. Die Weiterentwicklung des Jugendstrafrechts im Rah-

men der Strafrechtsreform. öJZ 1974, S. 85 ff.

トコト・ニーター (Maria A. Rieder)

継次 (Aufsätze)

1. Die Unterbringung in einer Anstalt für gefährliche

Ruckfallstätter. oJZ 1976, S. 390 ff.

2. Die strafrechtliche Beurteilung von Organtransplantationen de lege lata et ferenda. oJZ 1978, S. 113 ff.

ゼップ・リーダー (Sepp Rieder)

司法次官シキジヤクシ。

主要著書 (Schrift)

Mayerhofer-Rieder, Das österreichische Strafrecht, 1974.

論文 (Aufsätze)

1. Stand der Medienrechtsreform. StProbl. II, 1974, S. 127 ff.

2. Das neue Lebensmittelgesetz: Strafrechtsreform und Lebensmittelrecht. oJZ 1976, S. 172 ff.

リットナー (Theodor Rittler)

一八七六年二月一日、ウィーンに生まれ、一九六六年二月四日、同市で死去した。一八九五年から一九〇〇年まで、ウィーン大学に学び、刑法をランマッシュェとシュトースのもとで勉強した。一九〇一年には、学位を得ている。一九〇二年に、司法省に入り、実務を研修し、一九〇八年に、ウィーン大学で教授資格を得、一九一二年にインスブルック大学教授となった。本誌四一巻一二号、五六頁上段。

Geboren am 14. 12. 1876 u. verstorben am 14. 12. 1966 in Wien. Promotion 1901, Habilitation 1908, oP Innsbruck seit 1912. Vgl. Hogaku Kenkyu, Bd. 41, Heft 12, S. 56.

オーストリア刑事法学の一断面

Festschriften für Theodor Rittler, 1946 u. 1957.

Glückwünsche: Grabberger, JBl 1951, S. 325; JBl 1967, S. 79; Nowakowski, JBl 1956; Seelig, JBl 1951, S. 583; Spindel, NJW 1967, S. 25.

Nekrologe: Grabberger, JBl 1967, S. 225; R. v. Hippel, ZStW Bd. 78, 1966, vor S. 615; Nowakowski, oJZ 1967, S. 197 f.; Spindel, NJW 1967, S. 769.

論文 (Aufsätze)

1. Erpressung oder statthafte Einflußnahme auf fremden Willen? oRiZ 1957, S. 139 ff.

2. Das Strafrecht Österreich und der Streik der Beamten. Festschr. f. U. Stock, 1968, S. 127 ff.

レーダー (Hermann Roeder)

一八九八年六月一日、ウィーンに生まれた。一九三三年に、ウィーン大学講師となり、その後研鑽を重ね、一九五六年に同大学員外教授、一九六〇年にグラーツ大学正教授となった。本誌四一巻一二号、五六頁下段。

Geboren am 1. 6. 1898 in Wien. UDoz. Wien 1933, aOP Wien 1956, oP Graz 1960.

Vgl. Hogaku Kenkyu, Bd. 41, Heft 12, S. 56.

主要著書 (Schriften)

Willensfreiheit und Strafrecht, 1932.

一二五 (四四九)

- Schuld und Irrtum im Justiz- und Strafrecht, 1938.
 System des österreichischen Strafverfahrensrechts, 1951.
 Erscheinungsformen des Verbrechen, 1953.
 Lehrbuch der österreichischen Strafverfahrensrechts, 1963.
 Bemerkungen zum Allgemeinen Teil des österreichischen Strafesetzentwurfes, 1965.
 Die Einhaltung des sozialadäquaten Risikos und ihr systematischer Standort im Verbrechenaufbau, 1969.
 継次 (Aufsätze)
1. Befreiung von der Untersuchungshaft bei Kapitalverbrechen? (Zur Auslegung des § 194 StPO). öRiZ 1957, S. 77 f.
 2. Das Schuld- und Irrtumsproblem beim Vollrausch. Festschr. f. Rittler, 1957, S. 211 ff.
 3. Gibt es „absolut nichtige“ Strafurteile? öJZ 1968, S. 141 ff.
 4. Ist eine mehrmalige Aussetzung der Entscheidung im geschworenengerichtlichen Verfahren zulässig? JBl. 1969, S. 586 ff.
 5. Der Einfluß des Todes der Prozeßsubjekte auf das Strafverfahren. JBl. 1970, S. 497 ff.
 6. Haftung für durch riskantes Verhalten verursachte Erfolge. öJZ. 1970, S. 378 ff.
 7. Zum Sachverständigenbeweis im Lebensmittelstrafprozess. JBl. 1972, S. 76 ff.
 8. Der Schutz der Intimsphäre de lege ferenda. öRiZ 1972, S. 57 ff.
 9. Der systematische Standort der „Wahrnehmung berechtigter Interessen“ im Spiegel der Strafrechtsreform. Festschr. f. Heinitz, 1972, S. 229 ff.
 10. Wahrheitsbeweis und Indikretionsdelikt nach deutschem und österreichischem Strafesetzentwurf. Festschr. f. Maurach, 1972, S. 347 ff.
 11. Die Beweisverbote im österreichischen und deutschen Strafverfahren. öJZ 1974, S. 309 ff., 343 ff.
 12. Der Unbegriff des „extranen“ Täters und der „eigenändigen“ Delikte (zu § 14 Abs 1 StGB). JBl. 1975, S. 561 ff.
- ロープハ・ゾグレン (Wilhelm Rosenzweig)
 継次 (Aufsatz)
 Drei Verfassungsgerichte zur Fristenlösung. Festschr. f. Broda, 1976, S. 231 ff.
- ホフウター (Fritz Sacher)
 継次 (Aufsatz)
 Umfang und Reihenfolge der Fahrzeuguntersuchung auf

ein technisches Gebrechen. öRiZ 1974, S. 203 f.

サノン (Theodor Sagl)

繼文 (Aufsatz)

Der zeitgemäße Jugendstrafvollzug. Der Jugendstrafvollzug als soziale Drehscheibe. öJZ 1977, S. 511 ff.

サロモン (Salomon)

繼文 (Aufsätze)

1. Die Postbeschlagnahme. öJZ 1968, S. 237 f.

2. Marschall u. Salomon, Die neuen Qualitätbestände.

öJZ 1972, S. 449 ff., 482 ff., 512 ff.

サンドリ (OLGRat Adolf Sandri, Wien)

繼文 (Aufsätze)

1. Der Strafantrag im bezirksgerichtlichen Verfahren.

öRiZ 1956, S. 4 f.

2. Anregung einer Änderung der §§ 454 und 459 StPO. öRiZ 1957, S. 109 ff.

3. Der Schutz des Brief- und Schriftgeheimnisses in Rechtslehre und Rechtsprechung. öRiZ 1962, S. 182 ff., 209 ff.

サントー (Armin Santner)

本誌四一巻一二号、五六頁十段。

繼文 (Aufsatz)

Das Hauptverhandlungsprotokoll. Diskussionsbeitrag zur geplanten Novellierung der StPO. öJZ 1977, S. 351 f.

シャッカー (Herbert Schachter)

繼文 (Aufsatz)

Grundsätze der österreichischen Straßenverkehrsordnung. ZVR 1975, S. 97 ff.

シャッファー (Otto Schaffer)

繼文 (Aufsätze)

1. Die ideale Kreuzungsregelung. öRiZ 1956, S. 52 ff.

2. Die Rechtsregel in der Praxis des Verkehrs und im Spiegel der Judikatur. ZVR 1959, S. 64 ff.

3. Anklageerhebung und Verfahrenseinstellung in Verkehrsstrafsachen. öRiZ 1964, S. 147 f.

シャウハー (Josef Schaubhuber)

繼文 (Aufsätze)

1. Die Zwangsmittel zur Vollziehung der vorläufigen Abnahme des Führerscheines. ZVR 1957, S. 63 ff.

2. Auf frischer Tat betreten. Zur Auslegung dieses Begriffes bei Verkehrsdelikten. ZVR 1958, S. 144 ff.

ハインズホーフト (Emil Scheibenhof)

論文 (Aufsätze)

1. Warum Heraushebung der Richter? öRiZ 1955, S. 33 ff.
2. Hunderjtahre Bezirksgericht. öRiZ 1969, S. 1 ff.

ハント (Univ. Assistent Peter J. Schick, Salzburg)

ホントハント大法院中野教授⁹⁰

論文 (Aufsätze)

1. Zeitgesetze. Ein Problem des Strafanwendungsrechts. JBl. 1969, S. 639 ff.
2. Die Entschuldbarkeit rechtsirrtümlichen Handelns im Lichte der österreichischen Strafrechtsreform. öJZ 1976, S. 535 ff.

3. Die „einleitende Fahrlässigkeit“. Eine neue Rechtsfigur in der Judikatur des OGH? öJZ 1974, S. 257 ff., 281 ff.

4. Problemaspekte des Verkehrsstrafrechts. ZVR 1974, S. 353 ff.

5. Kriminalpolitische Erwägungen zum Wirtschaftsstrafrecht in Österreich. öJZ 1975, S. 537 ff.

6. Die „Unzucht“. Ein Problem der „Parallelwertung im

Instanzenzug“. öJZ 1976, S. 96 ff.

ハント (Wolfgang Schild)

「ユーンハント大法院の研究参与兼教授中野教授」⁹¹ 掲載・前田五三三博士に参照。

WissRat u. Prof. Bielefeld, Vgl. Miyazawa, op. cit., S. 532 f.

論文 (Aufsätze)

1. Unterbrechung des Kausalzusammenhanges. öRiZ 1974, S. 109 ff.
2. Die Aktualität Ernst Belings. Gedanken zu seiner Wissenschafts- und Strafrechtstheorie. JBl. 1975, S. 281 ff.

ハント (Elisabeth Schilder)

論文 (Aufsätze)

Stratvollzug in Freiheit. Festschr. f. Broda, 1976, S. 267 ff.

ハント (Walter Schiller)

論文 (Aufsätze)

Butalkohol bei Verkehrsstrafaten. öRiZ 1956, S. 1 ff.

ハント (Konrad Schima)

一九四二年六月二十七日「ハント」に生まれた。一九六四年に学位を取得し、一九七三年に教授資格をえて「講師」なり。一九七八年

ド・ヴァーレン大学員外教授となった。

Geboren am 27. 6. 1942 in Wien. Dr. jur. 1964, Habil. 1973, UDZ 1973, aOP 1978.

出版論叢 (Schriften)

Burgstaller-Schima, Die Aussetzung der Entscheidung im

Verfahren vor den Geschworenengerichten, 1968.

Erpressung und Nötigung, 1973. (Habilitation)

Kriminologische Aspekte der Fahndung im Fernsehen, 1974.

論文 (Aufsätze)

1. Möglichkeiten und Grenzen der Urkundenexpertise.

öRiZ 1974, S. 123 ff.

2. Möglichkeiten und Grenzen der Urkundenexpertise.

StPröbl. II, 1974, S. 43 ff.

3. Die österreichische Kriminologie – etwas anders gesehen.

öRiZ 1976, S. 130 f.

4. Frauenkriminalität in Österreich. öJZ 1978, S. 561 ff.

ハ・シュルター (Sepp Schindler)

論文 (Aufsatz)

Psychologische Anmerkungen zu einigen Grundzügen des österreichischen Jugendgerichtsgesetzes. öRiZ 1956, S. 163 ff.

ハ・ノヴァク (Berta Schlogl)

論文 (Aufsatz)

Die Dauer des Mordprozesses in Zwischenkriegszeit und Gegenwart. öJZ 1973, S. 385 ff.

フリッツ・シュロッサー (Fritz Schlosser)

論文 (Aufsatz)

Unzuchthandlungen an gleichgeschlechtlichen Unmündigen, öRiZ 1959, S. 21 f.

ゲオルグ・シュミッツ (Georg Schmitz)

論文 (Aufsatz)

Alkotestgesetzgebung in England. ZVR 1970, S. 199 ff.

オットー・シュobel (Otto Schobel)

論文 (Aufsatz)

Die Novellenbestimmung des § 17 Abs. 3 StVO. ZVR 1967, S. 1 ff.

フランツ・シュober (Franz Schober)

論文 (Aufsätze)

1. Hat sich das Haftprüfungsverfahren bewährt? öRiZ 1972, S. 191 f.

2. 90 Jahre Straffälligenhilfe in Graz. öRiZ 1975, S. 65.

ハートネグナー (Schönegger)

論文 (Aufsatz)

Gesetzesverletzungen bei der Delegation im Verwaltungsstrafverfahren. öJZ 1968, S. 385 f.

ハートハチニル (Walter, Schönfeld)

論文 (Aufsatz)

R. Szirba - F. Schönfeld, Zur Reform des Verwaltungsstrafrechtes. öRiZ 1977, S. 89 ff.

ハートハチニル (Prof. Fritz Schönhenn, Wien)

論文 (Aufsatz)

Die Volksanwaltschaft - realistisch betrachtet. öJZ 1976, S. 561 ff., 597 ff.

ハートハチニル (Fritz Schönherr)

論文 (Aufsatz)

Kann der Irrtum über ein strafrechtliches Nebengesetz entschuldigen? öJZ 1969, S. 432 f.

シロモーザル (Walter Schragel)

論文 (Aufsätze)

1. Der österreichische Richter in der modernen Gesellschaft. öRiZ 1973, S. 37 ff., 57 ff.

2. Juristenaus- und -fortbildung. öRiZ 1974, S. 128 ff.

オムズク (OLGRat Edwin Schulz, Wien)

論文 (Aufsätze)

1. Zur Problematik des § 19 Absatz 4 StGB. öRiZ 1977, S. 22 ff.

2. Zur Frage der Überlassung der Geldstrafe an den Geschädigten. öRiZ 1977, S. 254 ff.

3. Der Strafaufschub im Tagessatzsystem. öRiZ 1978, S. 230 ff.

ハートシュピッ (Walter Schuppich)

ノーメンクレープ博士論文の領収書

Präsident des österreichischen Rechtsanwaltskammertages. 論文 (Aufsätze)

1. Anklage und Verteidigung. Hundert Jahre 1973, S. 197 ff.
Die deutschen Rechtsanwälte. öJZ 1974, S. 291 ff.

シロムスター (Präsident des OLG Johann Schuster, Linz)

ヴァーレン地裁の副所長、所長を経た、その後、リンツ高裁所長に

なごたは事務室のほう。

論文 (Aufsätze)

1. Struktur und Zukunft des österreichischen Richterstandes. öRiZ 1957, S. 149 ff.
2. Personalsenat und Personalvertretung. öRiZ 1962, S. 95 ff.
3. Grundprobleme unseres Berufsstandes. Eine Studie zur Personalpolitik. öRiZ 1962, S. 257 ff., 1963, S. 77 ff., 181 ff., 1965, S. 51 ff.
4. Ein Jahr Jugendgerichtsgesetz 1961. oRiZ 1963, S. 57 ff.
5. Nachwuchsfragen. öRiZ 1966, S. 37 ff., 55 ff.
6. Probleme und Lösungen um § 398 StPO. öRiZ 1967, S. 19 ff., 41 ff.
7. Gedanken zur Justizreform. öRiZ 1970, S. 85 ff.
8. Elektronische Datenverarbeitung in der Justiz. öRiZ 1971, S. 73 ff.
9. Elektronische Datenverarbeitung in Bundesverwaltung und Justiz. öRiZ 1972, S. 93 ff.

ハルスマー=ホハハニム (Walther Schuster-Bonnot)

論文 (Aufsatz)

Die Gefahr des Zuwiderhandelns gegen Unterlassungspflichten (Wiederholungsgefahr). JBl. 1974, S. 169 ff.

ハルマン (Hans Joachim Schütz)

論文 (Aufsatz)

Der völkerrechtliche Rahmen zur Bekämpfung von Flugzeugentführungen und anderen Terrorakten gegen die internationale Zivilluftfahrt. öJZ 1957, S. 225 ff.

ハルシュツ (Harald Schwarz)

論文 (Aufsatz)

Nochmals: „Anklageerhebung und Verfahrenseinstellung in Verkehrsstrafsachen“. öRiZ 1965, S. 17 ff.

ハルシュツマン (Michael Schwimann)

論文 (Aufsatz)

Probleme des Haager Straßenverkehrsabkommens. ZVR 1978, S. 161 ff.

ヤーホハ (Johann Seehon)

論文 (Aufsatz)

Der Straßenverkehrsunfall aus internationaler Sicht. Beurteilung nach dem Recht der BRD. ZVR 1973, S. 338 ff.

ホヤトナー (Robert Seiler)

一九三一年二月一日、モラバ河津のヤールブルクに生まれた。

一九六〇年に、ツラーツ大学講師、六四年に員外教授となった。一九六六年に、ザルツブルク大学に転じ、正教授として活躍したが、一九七三年に、再び、ツラーツ大学正教授となった。

Geboren am 11. 2. 1931 in Marburg/Drau. UDoz Graz 1960, aop Salzburg 1966, oP Graz 1973.

井原善壽 (Schriften)

Der strafrechtliche Schutz der Geheimsphäre, 1960. (Habilitation)

Die strafrechtlichen Grenzen des Streiks im öffentlichen Dienst, 1967.

Legalitätsprinzip und Weisungsrecht im Strafprozeß, 1968.

論文 (Aufsätze)

1. Neue Wege in der Strafrechtsreform. JBl. 1969, S. 113 ff.

2. Die Bedeutung des Handlungsunwertes im Verkehrsstrafrecht. Festschr. f. Maurach, 1972, S. 75 ff.

3. Die Beweisverbote im Strafprozeß. JBl. 1974, S. 57 ff., 123 ff.

4. Beweismethodenverbote im österreichischen Strafprozeß. Festschr. f. Peters. 1974, S. 447 ff.

ド・セシオン (Udo Sesionek)

論文 (Aufsatz)

Dr. Johann Schuster - 70 Jahre. öRiZ 1978, S. 55.

セッサー (Klaus Sesser)

ド・インベントの「マタキ・ベリメンタ」・外国・国際刑法研究所の犯罪学部門の研発見員である。

論文 (Aufsatz)

Moderne Tendenzen in der deutschen Kriminologie. öJZ 1975, S. 59 ff.

ド・ゼロトベリッチ (Prof. Zvonimir Separović, Zagreb)

論文 (Aufsatz)

Die Bewertung der Trunkenheit im Strafrecht. ZVR 1969, S. 225 ff.

ハーテニ (Gerhard Siegl)

論文 (Aufsatz)

H. Zima u. G. Siegl, Die automatische Tilgung von strafrechtlichen Verurteilungen in Österreich. öRiZ 1975, S. 65 ff.

シムマ (Bruno Simma)

論文 (Aufsätze)

1. Die § 338 und 339 der Regierungsvorlage eines Strafgesetzbuches im Lichte des Völkerrechts. JBl. 1968, S.

458 ff.

2. Alfredo Verdooß – 85 Jahre. JBl. 1975, S. 86 f.

ダフネ・アリアネ・シモッタ

論文 (Aufsätze)

1. Das neue Strafrecht und sein Einfluß auf die Wiederaufnahmsklage nach § 530 Abs 1 Z. 1 und 3 ZPO. öJZ 1978, S. 337 ff., 375 ff.

2. Das neue Strafrecht und sein Einfluß auf die Wiederaufnahmsklage nach § 530 Abs. 1 Z. 2 und 4 ZPO. öJZ 1978, S. 624 ff., 645 ff.

ミラデン・シンガー

論文 (Aufsatz)

Jugendliche im jugoslawischen Strafrecht. JBl. 1969, S. 594 ff.

フェリクス・シンズィンガー

論文 (Aufsatz)

Der religiöse Eid im gerichtlichen Verfahren. öJZ 1973, S. 121 ff.

シエグフリート・シテンホルター

オーストリア刑事法学の一面

論文 (Aufsatz)

W. Hauptmann u. S. Sittenhalter, Strafrecht: Zusammenarbeit zwischen Theorie und Praxis in Linz. oRIZ 1976, S. 132 ff.

スルガ (Willibald Sluga)

一九三〇年ウィーンで生まれた。一九五五年に医学博士の学位を取得の後、ウィーン大学精神・神経学クリニックに入局した。一九六三年に「シッター・メタインクの特別施設の創設以降、精神科医長を兼ね、現在に至るまで」

Geboren 1930 in Wien. Nach der Promotion Eintritt in die Psychiatrisch – Neurologische Universitätsklinik. Seit der Gründung der Sonderanstalt Wien-Mittersteig (1963) ärztlich-psychiatrischer Leiter dieser Anstalt.

刊行書籍 (Schrift)

Geisteskranke Rechtsbrecher. Forensische Psychiatrie und Strafrechtspflege, 1977.

論文 (Aufsätze)

1. H. Hoff u. W. Sluga, Geisteskranke Rechtsbrecher in psychiatrischen Krankenanstalten und die für eine moderne Psychiatrie sich daraus ergebenden Nachteile. öJZ 1969, S. 63 ff.

2. Das neue Strafgesetzbuch und die Aufgaben einer neu-

en forensischen Psychiatrie. öJZ 1974, S. 203 ff.
3. Psychiatrie und Freiheitsentzug. Festschr. f. Broda,
1976, S. 315 ff.

フンク (Franz Sobalik)
纏文 (Aufsatz)

Die Ansprüche nach § 193 Abs. 3 StPO. auf die für ver-
fallen erklärte Haftkaution. öRiZ 1971, S. 1 ff.

ペーウ (Peter Soche)
纏文 (Aufsatz)

Führerscheinentzug durch die Gerichte? Überlegungen
zur Regierungsvorlage des Kraftfahrzeuggesetzes 1966. öRiZ
1967, S. 96 ff.

ソルゴ (G. Sorgo)
纏文 (Aufsatz)

W. Laubichler - G. Sorgo, Zur Problematik einer gerichts-
ärztlichen Einstufung von Gehirnschütterungen für das
Strafverfahren. öRiZ 1973, S. 5 ff.

クムソロ (Klára Somló)
纏文 (Aufsatz)

Das ungarische Jugendgesetz. öRiZ 1972, S. 141.

ヘーバー (Herbert Spehar)
纏文 (Aufsatz)

Zur Auslegung der Begriffe „Fahrzeug, das zum Antrieb
mit Maschinenkraft eingerichtet ist,“ und „Fahrrad“ im
§ 467 b StG. ZVR 1964, S. 58 ff.

ハルプ (Walter Spiel)
纏文 (Aufsatz)

Tiefenpsychologische Gesichtspunkte in der Rechtspflege.
öRiZ 1977, S. 185 ff.

ハルスタット (Gerhard Stadler)
纏文 (Aufsätze)

1. Der Computer als Entscheidungshelfer des Richters.
öRiZ 1974, S. 153 ff.

2. Die Rechtsstellung der Psychologen. öJZ 1977, S. 623 ff.

ハルツ (Wolfgang Stangl)
メーカハヤク・ホニント民権社会権研究所の研究員である。
出版雑誌 (Schriften)

A. Pilgram - W. Stangl, Zwei Strategien zur Verminder-
ung des Durchschnittsbelages und der Frequenz von Gefan-
genenhäusern in Österreich, 1974.

S. Mikinovic - W. Stangl, Das Rechtsmittel im Strafprozess. Eine empirische Studie richterlicher Entscheidungsfindung. 2 Teilberichte, 1977.

論文 (Aufsätze)

1. Instanzen sozialer Kontrolle als Forschungsgegenstand der Kriminalsoziologie. öRiZ 1977, S. 92 ff.

2. Stephan Mikinovic u. Wolfgang Stangl, Rechtsmittelentscheidungen im Strafverfahren. öRiZ 1978, S. 74 ff.

ハタヤヒハナニ (Oberstaatsanwaltsstellvertreter Herbert

Steininger, Wien)

ハベーンで検察部や司法省。最近、次長検事になった。

論文 (Aufsätze)

1. Die Wahrung des Rechtsvorranges. ZVR 1963, S. 1 ff.

2. Vertrauensgrundsatz und Fahrlässigkeit. ZVR 1963, S. 57 ff., 89 ff., 120 ff.

3. Die Straßenverkehrsordnungs-Novelle 1964 und die Wahrung des Rechtsvorranges. ZVR 1964, S. 281 ff.

4. Zur Auslegung des Begriffes „schweres Verschulden“ im § 431 Abs. 2 StG nF. ZVR 1972, S. 65 ff.

5. Die Neuregelung der sachlichen Zuständigkeit in Strafsachen aus Anlaß des Inkrafttretens eines neuen Strafgesetzbuches. Hundert Jahre, 1973, S. 207 ff.

ハタヤヒナニ (Univ. Prof. Heinz Steinert, Frankfurt)
ハベーン大学講師や、ルーター・マックス・ホルツマン犯罪社会学研究所員であったが、西独のフランクフルト大学の教授となった。
主要著作 (Schriften)

A. Pilgram - H. Steinert, Zur Soziologie der Rechts- und Kriminalitätentwicklung, 1974.

I. Gössler-Leirer - H. Steinert, Kriminalität der Frau in Österreich, 1975.

論文 (Aufsätze)

1. Richterliche Urteilsfindung und Strafvollzug. StProbl. II, 1974, S. 147 ff.

2. Über die Funktionen des Strafrechts. Festschr. f. Broda, 1976, S. 335 ff.

ハトケールベントナー (Ferdinand Stiglbauer)

論文 (Aufsätze)

1. Bedarf der Katalog der vorbeugenden Massnahmen des Strafgesetzentwurfes 1971 einer Ergänzung? JBl. 1972, S. 345 ff.

2. Nötigung und Erpressung im neuen Strafrecht. öJZ 1974, S. 645 ff.

ハトケールベントナー (Friedrich J. Stumpf)

一九〇二年十一月二三日、ウィーンに生まれた。一九二六年に、ウィーン大学の医学博士の学位を取得し、一九三五年に、ウィーン大学で教授資格を得た。一九三〇年から一九三九年まで、ウィーン大学で教授資格を得た。一九三〇年から一九三九年まで、ウィーン大学で教授資格を得た。一九三〇年から一九三九年まで、ウィーン大学で教授資格を得た。一九三〇年から一九三九年まで、ウィーン大学で教授資格を得た。

一九三〇年から一九三九年まで、ウィーン大学で教授資格を得た。一九三〇年から一九三九年まで、ウィーン大学で教授資格を得た。一九三〇年から一九三九年まで、ウィーン大学で教授資格を得た。一九三〇年から一九三九年まで、ウィーン大学で教授資格を得た。一九三〇年から一九三九年まで、ウィーン大学で教授資格を得た。

一九三〇年から一九三九年まで、ウィーン大学で教授資格を得た。一九三〇年から一九三九年まで、ウィーン大学で教授資格を得た。一九三〇年から一九三九年まで、ウィーン大学で教授資格を得た。一九三〇年から一九三九年まで、ウィーン大学で教授資格を得た。一九三〇年から一九三九年まで、ウィーン大学で教授資格を得た。

- Motiv und Schuld(?)
- 論文 (Aufsätze)
- 1. Fortschritte der Psychiatrie zur Frage der Zurechnungsfähigkeit. öRiZ 1971, S. 145 ff.
- 2. Zur Psychopathologie und Dynamik destruktiver Tropismen. Festschr. f. R. Lange, 1976 S. 737 ff.

3. Psychiatrie und das neue Strafrecht. öRiZ 1978, S. 149 ff.

ジョセフ・アントン・シュテラー (Josef Anton Stütler)

論文 (Aufsatz)

Das Naturrecht - eine historische Frage. Kritische Anmerkungen zum Naturrechtsproblem in Geschichte und Gegenwart. öJZ 1969, S. 144 ff.

ヨゼフ・スリョク (Josef Suljok)

論文 (Aufsatz)

Die Behandlung der tödlichen Verkehrsunfälle in der Gerichtspraxis. öJZ 1976, S. 260 ff.

ルドルフ・スジルバ (Hofrat Rudolf Szirba)

論文 (Aufsätze)

- 1. Die Subsidiaritätsklausel bei staßenzuständigen Verwaltungsbüchereien. ZVR 1966, S. 117 f.
- 2. Rudolf Szirba u. Walter Schönfeld, Zur Reform des Verwaltungsstrafrechtes. öRiZ 1977, S. 89 ff.

アーノ・テルリツァ (Arno Terlitza)

論文 (Aufsatz)

Die Justiz in Südafrika. öRiZ 1967, S. 189 ff.

トヤートマン (Klaus Tiedemann)

西ドイツのフライブルック大学教授の著。宮藤・前出大田二頁以下。
oP Freiburg i. Br. Vgl. Miyazawa, op. cit., S. 642 ff.

論文 (Aufsatz)

Verwaltungsstrafrecht und Rechtsstaat. oJZ 1972, S. 285 ff.

トクトヤク (Ludwig Tlapek)

論文 (Aufsatz)

Rechtsmittelreform im Strafverfahren. öJZ 1968, S. 565 ff.

トリーニク (Edgar Triebnigg)

論文 (Aufsätze)

1. Orientierung über das Problem der Naturrechtslehre.

Zugleich eine Besprechung der 3. Aufl. des Buches

„Das Problem der Naturrechtslehre. Versuch einer Orientierung“ von DDr. Erik Wolf. öJZ 1968, S. 263 ff.

2. G. Woratsch u. E. Triebnigg. Der V. Kongreß der internationalen Vereinigung der Richter. öRiZ 1975, S.

45 ff.

3. Woratsch - Triebnigg, Richterliche Spezialisierung-

Ärztliche Verantwortlichkeit - Der Zweck der Strafe.
öRiZ 1975, S. 47 ff.

トロンデル (Herbert Tröndle)

西独のワルムンナー・チューンゲン地裁所長である。

主要著作 (Schrift)

Dreher - Tröndle, Strafgesetzbuch und Nebengesetze, 38. Aufl., 1978.

論文 (Aufsatz)

Geldstrafe und Tagessatzsystem. öJZ 1975, S. 589 ff.

トシュデク (Otto Tschadek)

連邦司法大臣であった。本誌四一巻一二号、五七頁上段。

論文 (Aufsatz)

Den Richtern und Staatsanwälten zum Gruß. öRiZ 1956, S. 97.

トシュルク (Oberstaatsanwaltsstellvertreter Otto Tschulik,

Wien)

オーストリアの少年裁判所判事である。検察官であり、最近、次長検事になった実務家である。

論文 (Aufsätze)

1. Zum Tatbestand des § 467 b StG. öRiZ 1960, S. 85 ff.

2. Strafrechtsreform und Gerichtsorganisation, öRiZ 1966, S. 133 ff.
3. Die tätige Reue nach der Regierungsvorlage, öJZ 1973, S. 653 ff.
4. Zum Stand der Strafrechtsanpassung, öRiZ 1974, S. 181 ff.
 ホルツ (Karl Tuppaa)
 論文 (Aufsatz)
 Auch im Wiederaufnahmeverfahren soll dem anthropologisch-erbiologischen Gutachten die Blutgruppenuntersuchung vorangehen, öRiZ 1967, S. 23 f.
 ホルツ (Prof. Dr. med Udo Undeutsch, Köln)
 論文 (Aufsatz)
 Verkehrsvorschriften psychologisch betrachtet, ZVR 1968, S. 8 ff.
 ホルツ (OLGRat Rolf Veit)
 出版論文 (Schriften)
 Dittrich-Weit-Schuchlenz, Österreichisches Straßenverkehrsrecht, I, II, 1968, 1970.
 論文 (Aufsatz)
- Stellungnahme zu vorstehenden Ausführungen. (R. Hartmann, Zur Auslegung des Rechtsvorsanges.) ZVR 1956, S. 147 ff.
 ホルツ (Theodor Veiter)
 論文 (Aufsatz)
 Terminologisch-semantische Beiträge zur Flüchtlingsforschung, öJZ 1977, S. 281 ff.
 ホルツ (Adalbert Vleck)
 論文 (Aufsatz)
 K. Marschall - A. Vleck, „In dubio mitius“ als Auslegungsgrundsatz im neuen Strafrecht, öJZ 1974, S. 389 ff., 425 ff., 449 ff.
 ホルツ (Heinrich Vogl)
 論文 (Aufsätze)
 1. Gedanken zur Regelung der Verkehrsdelikte im Strafgesetzentwurf, ZVR 1960, S. 145 ff.
 2. Gedanken zu einer Reform des Strafprozessrechtes, JBl. 1976, S. 524 ff.
 ホルツ (Gregor Wachs)

論文 (Aufsatz)
1961 bis 1966 zur Probe entlassenen Strafgefangenen.
oRiZ 1972, S. 198 ff.

ワハク (Eva Wach)

論文 (Aufsatz)
Strafrechtliche Probleme des Selbstmords. oJZ 1978, S.
479 ff.

ベニクハルムノチ (Bengt Wahlstrom)

論文 (Aufsatz)
Der Straßerverkehrsunfall aus internationaler Sicht. Be-
urteilung nach schwedischem Recht. ZVR 1973, S. 358 ff.

フナホトハ (OLG Präsident Rudolf Wassermann, Braun-
schweig)

論文 (Aufsätze)

1. Nochmals: Justiz und Politik. öRiZ 1974, S. 184 ff.
2. Zur Ausbildung des modernen Strafrichters. StProbl.
III, 1975, S. 113 ff.

ワニョリク (Erich Watollik)

論文 (Aufsätze)

1. Die Halte- und Parkvorschriften im deutschen und
österreichischen Straßerverkehrsrecht. ZVR 1965, S.253 f.
2. Der Alkoholmißbrauch im Straßerverkehr und seine
Rechtsfolgen. ZVR 1966, S. 169 ff.

フナホトハニヤク (Univ. Assistent Herbert Wegscheider,
Linz)

論文 (Aufsätze)

1. Rechtsinformatik in Österreich - eine Utopie? öRiZ
1973, S. 73 ff.
2. Der Vorsatz bei normativen Tatbestandsmerkmalen.
Das Problem der „Parallelwertung in der Laiensphäre“.
JBl. 1974, S. 192 ff.
3. Plötzliches Entreißen einer Sache - Raub oder Dieb-
stahl? oJZ 1975, S. 516 ff.
4. Versuch und Rücktritt beim schlichten Unterlassungs-
delikt? JBl. 1976, S. 353 ff.
5. Zum Verhältnis von Urkundenfälschung und Falsifi-
katsbenützung (§ 223 Abs 1 und Abs 2 StGB). öRiZ
1976, S. 172 ff.
6. Gerichtliche Vorehebungen (§ 88 Abs 1 StPO). öRiZ
1977, S. 206 ff.

フーバー (Hans Weiler)

続文 (Aufsatz)

Die zwangswise Blutabnahme in der Strafrechtspflege als verfassungsrechtliches Problem. ZVR 1958, S. 181 ff.

フーバー (Wilhelm Weimar)

続文 (Aufsatz)

Kinder als Verursacher und Opfer von Verkehrsunfällen dargestellt nach deutschem Recht. ZVR 1961, S. 54 ff.

フーバー (Friedrich Weinert)

続文 (Aufsatz)

Die Entwicklung des § 5 StVO. in der Praxis. ZVR 1963, S. 228 ff.

フーバー (Hermann Weinmann)

続文 (Aufsatz)

Probleme des Führerscheinzygus. ZVR 1960, S. 1 ff.

フーバー (Georg Weis)

続文 (Aufsatz)

Savigny und die Wirklichkeit. öJZ 1972, S. 1 ff.

フーバー (Emil Weinzierl)

続文 (Aufsatz)

Wann ist der Umkehrschluß zulässig? öJZ 1973, S. 372 ff.

フーバー (Manfred Welan)

続文 (Aufsätze)

1. Grundzüge des neuen österreichischen Universitätsrechts. öJZ 1976, S. 85 ff.

2. Wolfgang Groiss u. Manfred Welan, Der verfassungsrechtliche Schutz des menschlichen Lebens. öJZ 1978, S. 1 ff.

フーバー (Prof. Rudolf Welsler, Wien)

続文 (Aufsätze)

1. Der OGH und der Rechtswidrigkeitszusammenhang. öJZ 1975, S. 1 ff., 37 ff.

2. Schutzgesetzverletzung, Verschulden und Beweislast. ZVR 1976, S. 1 ff.

3. Zur Ersetzbarkeit von Detektivkosten beim Wareneinbruch. öJZ 1977, S. 645 ff.

フーバー (Leopold Werner)

続文 (Aufsatz)

Probleme um die Verfolgungsverjährung. JBl. 1968, S. 337 ff.

1974, S. 509 ff.

ブーンビーター (Bruno Wiesbauer)

継父 (Aufsatz)

ブリンンバター (Barbara Wildfingseder)

継父 (Aufsatz)

Mittäterschaft zu § 152 StG. öJZ 1972, S. 95 ff.

Die Empfehlungen des Europarats zur Vereinheitlichung des Schadensersatzes bei Körperverletzung und Tötung. öRiZ 1977, S. 4 ff., 24 ff.

ブーパー (Norbert Wimmer)

継父 (Aufsatz)

Das Lebensmittelgesetz 1975. Sein Vollzug im Widerstreit von Rechtsmeinungen, Sachverstand und Interessen. JBl. 1977, S. 471 ff.

ブールンツ (H. Wiethaupt)

継父 (Aufsatz)

Die Lärmbekämpfung in der Bundesrepublik Deutschland in rechtlicher Sicht. öRiZ 1963, S. 3 ff.

ト・ブール (Hans de Wih)

継父 (Aufsatz)

Das Strafvollzugsrecht in der Bundesrepublik Deutschland. öRiZ 1976, S. 209 ff.

ウヤントール (Otto Willert)

ウヤーン大卒の犯罪学研究所員トウウ⁹

出獄難轉 (Schriften)

Jugend-„Gangs“. Entstehung, Struktur und Behandlungsmöglichkeit der Komplizengemeinschaft Jugendlicher, 1959.

Gefährdete Jugend. Die Sozialarbeit im Wandel der Sozialbeziehungen und Erlebnisinhale der letzten Generation, 1962.

ZVR 1956, S. 19 ff.

継父 (Aufsatz)

Group-Counseling im österreichischen Strafvollzug. öJZ

トハルナル (PD Norbert Wölkart Wien, Inst. ger. Med.)

繼父 (Aufsatz)

Wie kann der Gerichtsmediziner zur Wahrheitsfindung beim Verkehrsunfall beitragen? ZVR 1956, S. 5 ff.

ゴロシキホフ (G. Woratsch)

繼父 (Aufsätze)

1. G. Woratsch-E. Triebnigg, Der V. Kongreß der internationalen Vereinigung der Richter. öRiZ 1975, S. 45 ff.
2. Woratsch - Triebnigg, Richtliche Spezialisierung-
Ärztliche Verantwortlichkeit - Der Zweck der Strafe.
öRiZ 1975, S. 47 ff.

ワラベツ (Kurt Wrabetz)

繼父 (Aufsatz)

Sind die Strafbestimmungen des Lebensmittelgesetzes 1951 reformbedürftig? JBl. 1971, S. 554 ff.

ツトウツトウ (Wolfgang Zagler)

繼父 (Aufsätze)

1. Die mangelnden Strafwürdigkeit der Tat. öJZ 1975, S. 346 ff.
2. Zur Anwendung des § 42 StGB. öJZ 1976, S. 347 ff.

ツトウツトウ (Josef Zari)

繼父 (Aufsatz)

Die vorläufige Verwahrung. öRiZ 1961, S. 31 ff.

ツトウツトウ (Herbert Zima)

繼父 (Aufsatz)

H. Zima-G. Siege, Die automatische Tilgung von strafrechtlichen Verurteilungen in Österreich. öRiZ 1975, S. 65 ff.

ツトウツトウ (Heinz Zipf)

ツトウツトウの犯罪論の展開。阿波・福田ヤリ川風子に参照。P Salzburg. Vgl. Miyazawa, op. cit., S. 713 ff.

繼父 (Aufsätze)

1. Das Strafverfahren in der Bundesrepublik Deutschland. öJZ 1974, S. 594 ff.
2. Die mittelbare Täterschaft und ihre Einordnung in § 12 StGB. öJZ 1975, S. 617 ff.
3. Zur Einwilligung im neuen Strafrecht, insbesondere beim Zusammentreffen mehrerer Rechtsgüter in einem Straftatbestand. öRiZ 1976, S. 192 ff.
4. Die Bemessung des Tagessatzes im neuen Geldstrafsystem. JBl. 1977, S. 304 ff.
5. Die Bedeutung und Behandlung der Einwilligung im

Strafrecht. oJZ 1977, S. 379 ff.

1973, S. 132 ff.

ニホター (Johann Zoder)

NN.

繼文 (Aufsatz)

繼文 (Aufsatz)

Zur Auslegung des § 81 StG. öRiZ 1957, S. 19 ff.

Verbrechen und Sanktion - Kriminalpolitik am Scheide-

weg? Entwicklungstendenzen im europäischen Strafrecht

(Internat. Symposition der Europ. Akademie Berlin vom 26.

Februar bis 2. März 1978 - Tagungsbericht). öRiZ 1978, S.

52 ff.

NN

繼文 (Aufsätze)

Justiz und Massenmedien. Kontaktgesprache im Grauen

Haus. öRiZ 1968, S. 86 ff.

- Zweites Arbeitsgespräch. öRiZ 1968, S. 184 ff.

NN.

繼文 (Aufsätze)

Aktivitäten im Dienste der Resozialisierung. öRiZ 1978,

S. 28.

NN

繼文 (Aufsätze)

Unterbrechung der Schwangerschaft in der DDR. öRiZ

Richterstatistik zum 1. 4. 1976, öRiZ 1976, S. 94.

衆